想い、未来に紡ぐ。

～桜の誇り、四つ葉の望み～

第138周年

甲府中学・甲府一高
同窓会

2018年5月19日(土)　甲府富士屋ホテル

あなたの、いちばんメディア。

山日YBSグループのシンボルマークです。
もっともっと、ドキドキさせたい！ワクワクさせたい！
その「！＝ビックリマーク」をモチーフに、
S（山日）とY（YBS）のどちらでもイメージさせる
ユニークなフォルムです。
「あなたの、いちばんメディア」をスローガンに、
次から次へ、新鮮な驚きと、新しい感動を、
お届けしてまいります。

Sannichi YBS Group

山日YBSグループ

甲府市北口2-6-10（〒400-8505）
電話番号案内 055-231-3000

山梨日日新聞社
山梨放送
アドブレーン社
サンニチ印刷
YBS T&L
山梨ニューメディアセンター
タウン企画
山梨文化学園
日本ネットワークサービス
デジタルデビジョン
ファーストビジョン
ウインテック コミュニケーションズ
新聞センター
山日リース
山梨文化会館

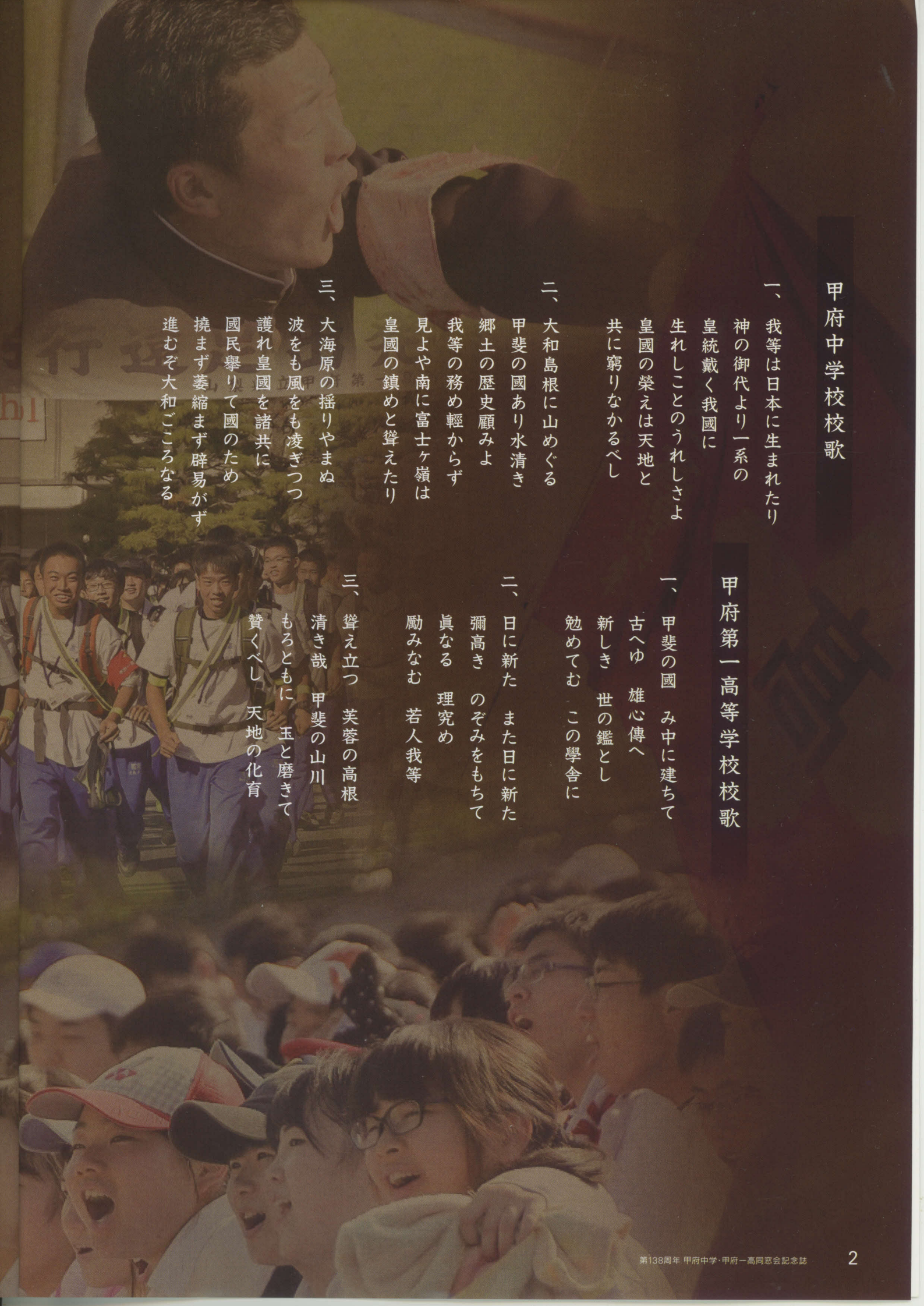
想い、未来に紡ぐ。

～桜の誇り、四つ葉の望み～

第138周年甲府中学・甲府一高同窓会

目次

甲府中学校校歌・甲府第一高等学校校歌・応援歌 …… 2
ご挨拶　甲府中学・甲府一高同窓会会長　金丸信吾 …… 4
　甲府第一高等学校校長　堀井　昭 …… 5
　第138周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員長　鈴木浩文 …… 6
特集1　探し求める …… 7
特集2　青春の味 日新カレーを求めて …… 26
特集3　一高 あるある …… 29
特集4　英語科から探究科へ …… 33
恩師寄稿 …… 34
広告目次 …… 44
広告（広告ページ1～111） …… 163
第138周年甲府中学・甲府一高同窓会協賛者ご芳名 …… 160
第138周年甲府中学・甲府一高同窓会学年協賛者氏名 …… 161
第138周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織 …… 162
編集後記 …… 163



甲府中学校校歌

一、我等は日本に生まれたり
神の御代より一系の
皇統戴く我國に
生れしことのうれしさよ
皇國の榮えは天地と
共に窮りなかるべし

二、大和島根に山めぐる
甲斐の國あり水清き
鄉土の歷史顧みよ
我等の務め輕からず
見よや南に富士ヶ嶺は
皇國の鎭めと聳えたり

三、大海原の搖りやまぬ
波をも風をも凌ぎつつ
護れ皇國を諸共に
國民擧りて國のため
撓まず萎縮まず辟易がず
進むぞ大和ごころなる

甲府第一高等学校校歌

一、甲斐の國　み中に建ちて
古へゆ　雄心傳へ
新しき　世の鑑とし
勉めてむ　この學舍に

二、日に新た　また日に新た
彌高き　のぞみをもちて
眞なる　理究め
勵みなむ　若人我等

三、聳え立つ　芙蓉の高根
清き哉　甲斐の山川
もろともに　玉と磨きて
贊くべし　天地の化育

起て撃て勝て

起て撃て勝て
甲府一高　一高
その名ぞ我が母校
仰ぐ芙蓉の峰さやか
穹天まさに轟かむ
見よ精鋭の集へるを
結べる眉に必勝の
誓ひは固しわれらが精鋭
おお
起て撃て勝て
甲府一高　一高
その名ぞ我が母校

希望の光

一、希望の光　身に浴びて
若人の意気負うて立つ
いま選手等の門出を
空もとどろに　応ふらん

二、敵軍いかに　猛くとも
忍び伏せたる梓弓
鍛えし腕引きしぼり
敵のかぶとを　射落さん

三、見よ穹天の　雲は垂れ
覇権を握るは今なるぞ
蚊竜の意気胸に秘め
いざや起て起て　わが選手

鶴城に

一、鶴城に桜花咲き
人は皆歓楽に酔ふ
われ一人落花を浴びて
前の恥花園に泣きぬ

二、秋来る健児の胸に
強き意気宇宙も空し
桜花の旗ひとたび振れば
醜の群れ微塵に飛ばむ
ヤッツケロ ヤッツケロ
ヤッツケ　ヤッツケ
ヤッツケロ

お御崎さん

お御崎さんの神主が
おみくじ引いて
申すには
いつも一高
勝ち勝ち
勝ち勝ち
ソレ勝ち勝ち
ソレ勝ち勝ち

感謝をこめて

甲府中学・甲府一高同窓会
会長　金丸　信吾

平成30年度の甲府中学・甲府一高同窓会の総会、並びに懇親会に御参加いただいた先輩、後輩の皆様、誠に有難うございます。心から歓迎いたします。

又、平素からの同窓会の運営、活動に対する同窓生の皆様の心温まる御協力、そして力強い御支援、御指導に、心から感謝と御礼を申し上げます。

我が母校甲府中学・甲府一高は、時に学校名の変更はありましたが、明治、大正、昭和、平成の時代を歩み、来年度は新たな年号を迎えます。本年で創立138周年を迎える、県内で最も長い歴史と伝統を持つ名門校であります。幾多の先輩達が築き上げ、受け継いできたこの歴史と伝統は、我々同窓生の誇りであり、又日々の自信となって、同窓生一人ひとりの生活の心の拠り所として、脈々と受け継がれています。

本年度同窓会のテーマは、「想い、未来に紡ぐ。～桜の誇り、四葉の望み～」であります。このテーマの下、同窓会活動においては、学生達のより良い教育環境の向上の為、学校設備の充実、奨学金制度の実施、又学生達のユニークな発想に対する日新基金の継続、そして強行遠足をはじめとする学校行事への積極的な支援等を引き続き実施して参りたいと思います。

又、2年後には創立140周年の記念事業を実施すべく、本年度からその準備に入りました。学校側、生徒会、PTA、そして同窓会の皆様の御意見を集約して、有意義な記念事業にする為には、多くの同窓会の皆様の御支援をいただかなければなりません。記念事業協賛会からの連絡がありましたら、是非御協力を賜りますようお願い申し上げます。

尚、本年度の総会をもって、私は同窓会会長を退任することになりました。役員として4年、会長として3期6年その任にあたって参りましたが、私自身の力不足で皆様方の御期待に充分お応えすることが出来なかったと思います。しかし、役員そして先輩、後輩の皆様方の温かい御支援により、何とかその責務を果すことが出来たと自負いたしております。永年に亘る御指導、御協力に、心から感謝を申し上げます。

最後になりましたが、本年度総会の為、大変な御苦労と御努力をいただいた、鈴木浩文実行委員長を中心とする昭和61年と平成15年卒業の当番幹事の皆様方全員に、心から敬意を表し御礼を申し上げます。

同窓生各位の益々の御繁栄と、甲府中学・甲府一高同窓会の更なる発展を祈ります。

歴史と伝統の重み

甲府第一高等学校
校長　堀井　昭

平成30年度甲府中学・甲府一高同窓会総会が、「想い、未来に紡ぐ。～桜の誇り、四葉の望み～」のテーマのもと、盛大に開催されますことを心より御祝い申し上げます。また、常日頃より同窓会の皆様方には母校への御理解と物心両面にわたる御支援を賜りまして心から感謝いたします。

甲府一高は来年の改元により明治13年創立以来5番目の元号の時代に入っていきます。校舎内の壁面には、沿革や校是、石橋湛山をはじめ各界で活躍された偉大な先輩達の業績、強行遠足の記録など数多くのパネルが設置されており歴史と伝統の重みを感じさせます。また外部の方々が来校された折に足を止め展示物を興味深くご覧になっている場面を見かけると同窓生の一人として誇らしく思います。

さて、母校の現状について報告いたします。平成3年に設置され山梨の英語教育をリードしてきた英語科はこの3月で幕を閉じました。25期生となる最後の生徒達も立派な成果を残し本校を巣立って行きました。ここからは探究科がその使命を引き継ぎます。

5年目となる文科省指定のSGH（スーパーグローバルハイスクール）の活動では、従来の教科指導の枠を超え、各種の体験行事や探究活動を通して知識や技能を身につけ、班ごとに設定した社会課題の解決にチャレンジしています。本年は最終年となりますが、培った資質や能力は生徒個々の財産として将来必ず役立つものと信じています。

部活動に目を向けると、普通科、探究科ともに文武両道を実践している生徒が多く、全国大会や関東大会に駒を進める部も少なくありません。また文化局各部は本校周辺の地域イベントにも頻繁に参加し街の活性化に貢献している様子がたびたびマスコミに取り上げられています。

伝統行事の強行遠足は、昨年も多方面からの支援を受け91回目を無事終了することができました。男子の距離が100km超に復活してから5年が経ち運営体制も安定してきています。昭和56年卒から昭和61年卒の同窓生の皆様には小諸をはじめ小海より先6カ所ある検印所の業務を担当していただき改めて御礼申し上げます。

甲府一高は138周年を迎え、節目となる140周年が間近となりました。同窓会員の皆様方には、今後とも変わらぬ御支援、御協力をお願いするとともに、益々の御発展と御健勝を祈念しまして挨拶といたします。

「想い、未来に紡ぐ。〜桜の誇り、四つ葉の望み〜」

第138周年 甲府中学・甲府一高同窓会
実行委員長 鈴木 浩文

第138周年 甲府中学・甲府一高同窓会総会および懇親会開催にあたり、本年度の当番幹事（昭和61年卒・平成15年卒）を代表いたしましてご挨拶申し上げます。

本日、同窓会がこのように盛会に開催されますことは、ひとえに金丸信吾同窓会長をはじめ、同窓会関係者の皆様方からの温かいご指導並びに、この記念誌への広告・協賛金・会員券等で多大なるご協力をいただきました賜物と厚く御礼申し上げます。

母校一高を卒業して32年が経ち、久しぶりに会う仲間と協力し実行委員会を運営していく中で、甲府中学・甲府一高の伝統と重みを再認識し、先輩達と接していく中で、あらためて母校愛に目覚め、当番幹事として活動してまいりました。

本年の同窓会のテーマは「想い、未来に紡ぐ。〜桜の誇り、四つ葉の望み〜」とさせていただきました。

桜は甲府中学、四つ葉は甲府一高を意味します。70年前に甲府中学から甲府一高になった時、これからの平和や明るい未来への期待を込めて校章や校旗・校歌が作られたと聞いております。甲府中学の伝統を引き継ぎ、いつまでも活き活きとした明るい甲府一高であってほしいと思っております。そして「我々同窓生も、いつまでも、はつらつと元気にいきましょう。」との願いを込め、テーマといたしました。

地域との絆を深めるのが小中学校時代とすれば、親友という個々の人間関係を築くのが高校時代だと思います。「聞いたことは忘れる。見たことは覚える。やったことは理解できる。」と高校時代に教わりました。当番幹事として久しぶりに色々なことで甲府一高に関わり、同窓会の実行委員会を担うことで、50歳になってまた同級生それぞれの絆や友情が深まり、お互いに成長できたと思います。

昨年、伝統の法被を受け継ぎ私たちなりに準備してまいりました。不行き届きの点等多々あると思いますが、母校に免じてお許しいただき、県下随一の伝統校、甲府中学・甲府一高の同窓会をお楽しみいただけますようお願い申し上げます。

結びに、甲府一高ならびに同窓会の益々のご発展、本日ご参集いただきましたご来賓、同窓生の皆様方のご多幸とご健勝を祈念申し上げ、実行委員長としての挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

特集 ❶

探し求める

「桜の誇り」と「四つ葉の望み」

我々昭和61年卒業生の卒業記念は校歌を刻んだ石碑である。
甲府中学から甲府一高へ、時代は移りゆく中で
校是は校歌の中に歌詞として織り込まれ、脈々と受け継がれています。
今年2018年は、甲府一高の校歌が生まれ70年の節目にあたります。
校歌に込められた、新しい時代への希望と、受け継ぐ伝統の想いを噛みしめるため

今年度の同窓会のテーマは

「想い、未来に紡ぐ。～桜の誇り、四つ葉の望み～」 としました。

二人の卒業生にスポットをあて、甲府中学から甲府一高に受け継がれる、
誇りと望みとは何かを探し求めます。

◀校歌を刻んだS61年卒業記念の石碑

- 苟日新 日日新 又日新
  （苟に日に新たに、日日に新たに、又日に新たなり）
- 賛天地之化育（天地之化育を賛く）
- Boys, be ambitious!（少年よ大志を抱け）
- Be Gentleman（紳士たれ）

昭和23年10月22日に開催された新校歌発表会の様子。
在校生、卒業生、職員から歌詞を募集した結果、職員だった上條馨氏の作詞に決定。
審査委員長は俳人の飯田蛇笏氏が務めた。作曲は東京大学の音楽担当であった小松清教授が担当した。発表会はソプラノ浅野千鶴子、ピアノ安倍和子さんを招いて盛大に開催された。

甲府中学 × 内藤博文

内藤博文

（1931年～2013年）

甲府中学（学制改革により1948年より甲府一高）1948年卒。在学中は野球部で活躍。読売ジャイアンツが初めて開いた入団テストを受け、第一号の合格者となる。小兵ではあったが、好守・俊足の選手として巨人、近鉄などで活躍した。当時は珍しかったジャンピングスローを得意とするなど守備力には定評があった。

引退後は、サンケイ、国鉄（現在のヤクルトスワローズ）、巨人などでコーチを歴任、1982年から1986年までヤクルトで二軍監督を務めるなど、若手選手の育成に情熱を燃やした。

栗山英樹（北海道日本ハムファイターズ監督）は入団時に二軍監督だった内藤を野球人生最大の恩師として慕っており、訃報の際には「あの人がいなければ、今の俺はなかった。野球観、生き方、すべてが俺のベースになっている」とコメントしている。

プロ野球に生きる「甲一魂」

内藤博文の生き様

「棒で球をたたいてばかりいる…」。少年の祖母は近所の人々にいつもこうもらしていた。少年の名は内藤博文。祖母の心配とは裏腹に、後に甲府中学(甲府一高)からプロ野球選手となり、野球界の発展に尽くすことになる。

内藤が甲府中学に入学したころ、日本は大きな戦争をしていた。上級生達は学舎を後に、軍需工場へ動員(学徒動員)され、また戦場へと赴いた者もいた。

そんな時代を経て、内藤は甲府中学野球部で名内野手として活躍。その後、巨人軍へ入団、選手として十三年間活躍した後、コーチ、監督を歴任、優れた指導者として多くの選手を育成した。

内藤が育てた選手の中の一人に、北海道日本ハムファイターズの栗山英樹監督がいる。

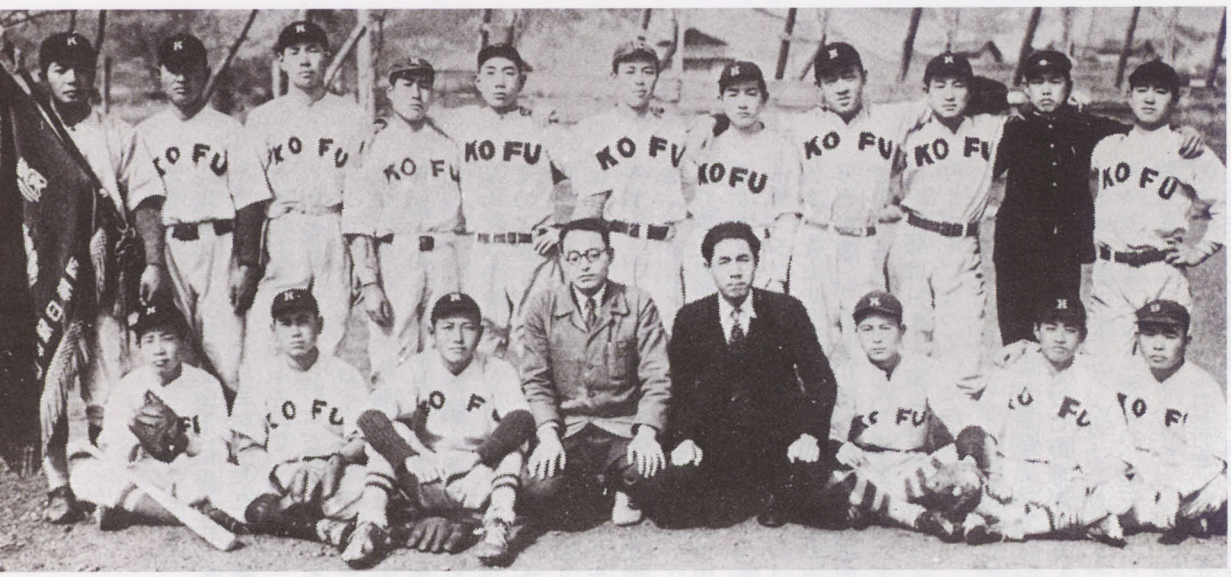
栗山英樹はプロ野球選手になることを夢見て、ヤクルトスワローズの入団テストを受けた。プロ野球選手として小柄で体格的に不利な栗山選手の入団を進言したのは、当時スワローズで二軍監督を務めていた内藤であった。内藤は、いったん不合格となった栗山選手について「ひょっとしたらモノになるかもしれない。俺に預けてくれ」とフロントを説得し、プロ野球の門を開いたのだった。

ヤクルト入団後も、選手としてなかなか芽の出なかった栗山選手。精神的にも追い詰められ野球をあきらめかけた栗山選手に内藤はこう語りかけた。

『クリ、プロ野球は競争社会だ。だが、そんなことはどうでもいい。おまえが人としてどれだけ大きくなれるかのほうがよっぽど大事だ。だから、周りがどうあろうと関係ない。明日おまえが、今日よりほんのちょっとでもうまくなっていてくれたら、オレはそれで満足だ。人と比べるな。』—

この言葉に栗山選手は奮起、内藤は練習時間後もマンツーマンで彼を指導した。二人は二人三脚で努力を続け、ついに栗山選手は一軍のレギュラーポジションを獲得、人気選手として活躍するまでに成長していく。栗山監督は「今の自分があるのは内藤さんのおかげだ」と今でも内藤を恩人として、そのエピソードを著書に記している。

甲府中学に学び、現在のプロ野球の発展に尽くした内藤博文とはどんな人物だったのか。今回、内藤博文の長女、内藤里砂さんの協力を得て、彼の人生を追った。



甲府中学野球部　戦後開幕当時　優勝記念／後列左端が内藤氏

のある方は御一読されたい。この著書の中には母校である甲府一高も登場し、三神吾朗の挑戦の原動力は、甲府一高（当時は甲府中学）の教えである「Boys, be ambitious!」の精神によるものであるとまとめられている。

ともかく、日本人最初のプロ野球選手と日本人最初のメジャー・リーガーが甲府中学の卒業生となるところであったとは興味深い話である。

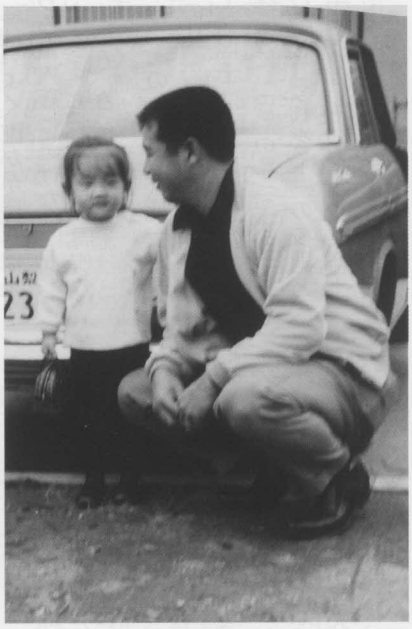
指導者として野球道を貫く

入団以来10年間を巨人でプレー、その後、先輩として慕っていた千葉茂の監督就任に合わせ近鉄へ移籍。移籍の際には、当時巨人の監督を務めていた水原茂が「お金の問題なら、これを使え」と自分の貯金通帳を出して内藤を引きとめたともいわれている。

現役を引退後は国鉄・サンケイのコーチをはじめ、巨人軍コーチ、ヤクルト二軍監督などを歴任し、指導者としてその才能を開花させた。

内藤は、酒を飲まない。しかし、二軍の若手選手などを家に招いては、酒や料理をふるまった。巨人軍コーチ時代には、当時二軍選手だった岡崎郁、定岡正二、中畑清ら、後の主力選手となる若手達が毎晩のように集まった。料理は妻の邦子さんの手料理。来るものを拒まないタイプの邦子さんは、イヤな顔ひとつせず若手選手達をもてなした。

奥様と


長女 里砂さんと

酒に酔った選手達を寮に送っていくのは内藤の役目。内藤自らが運転しピストン輸送で選手らを送る。コーチという立場の人間が、そのようなことをするのはいささか滑稽な気もするが、門限に間に合うよう、何往復してでも選手たちを送っていった。

多少門限を過ぎてしまってもコーチが一緒となれば寮長も大目に見ざるを得ない。これも内藤流の優しさではなかったか。内藤の傍には、いつも若手選手がいた。

家族がこう尋ねたことがある。「なぜ一軍のコーチをやらないのか」と。その時内藤は、若い選手を育てるのが、ものすごく楽しいと答えたという。若い選手を育てるのが好きだと。それは、厳しいプロ野球の世界を生き抜いてきた内藤の「野球道」であったと思う。

こんな話もある。実は内藤には、ヤクルトスワローズの一軍監督就任の依頼があった。しかしその時、内藤はこれを断り、自らは身を引く代わりに後輩の武上四郎に一軍監督を任せている。その真意は家族にしか知らされていないが、内藤自身の哲学に基づいた行動であった。人の悪口を言わない。上からものを言わない。そんな優しさを持つ父らしい行動であったと、家族は感じているという。

結果、内藤はヤクルトスワローズの二軍監督となり、そこで多くの選手の育成にあたった。そして栗山英樹選手（現日ハム監督）に出会うことになるのだ。

二軍の練習場へは、自宅から片道2時間をかけての「自動車通勤」。毎日熱心に若手指導にあたった。練習時間以外にもマンツーマンで選手を指導することも多く、そんな時は、邦子さんが内藤の分だけでなく選手の分のお弁当も一緒につくって持たせていた。

そうやって育てた選手が一軍で活躍する姿を見るのは、内藤にとって最高の喜びであったに違いない。

栗山監督が北海道日本ハムファイターズ監督就任のあいさつに内藤の元に来たときには、手元にあった箒を片手に、熱くバッティング理論を語ったという。そしてこんなアドバイスをしたそうだ。

「監督になると、色々な人が、色々なことを言ってくると思うけれど、そんなことはかまわず、栗山流を貫きなさい。クリのチームを作れよ」と。

その年、栗山ファイターズは監督一年目にして見事リーグ優勝を遂げている。その後もパリーグの強豪チームの名将として現在も戦い続けている。

暴れん坊の甲府中学時代

そんな内藤の甲府中学時代はどんな青春であったのか。

意外にも甲府中学時代は腕白坊主で有名だった。畑のモノを盗んだり、リヤカーで店に飛び込んだり、とにかく暴れん坊だったという。

自宅は旧境川村にあったため、甲府市美咲町の甲府中学までは歩いて一時間以上の道のり。内藤はリヤカーに乗り込み、それを後輩達にひかせて通っていた。校舎から校庭に向かって立ち小便をしている姿を目撃された話もある。そして、毎日のようにケンカに明け暮れた。「ケンカの強い内藤はおまえか！」校門には、よく誰かが待ち構えていた。もちろん内藤は逃げない。ケンカの前には、「にやり」と笑う。周りの者はそれがすごく怖かったらしい。

その様子は、あのクラーク博士が赴任した当時の札幌農学校の生徒と似ている。クラーク博士は、腕白だった札幌農学校の生徒達に「Be Gentleman(紳士たれ)」と諭し、それを唯一の校則とした。甲府中学には、そのクラーク博士に、直接教えを受けた大島正健が校長として赴任。現在でも甲府一高の教えとなっている、「Boys, be ambitious!(少年よ大志を抱け)」と「Be Gentleman(紳士たれ)」の言葉を残した。

甲府中学時代。学帽の二本線は甲中のシンボル。

「Be Gentleman(紳士たれ)」とは何か。それは、自分で自分を律することが出来るものが紳士。規則に縛られるのではなく、自らを律することができる人間であれという教えである。

腕白坊主の内藤は、甲府中学時代にこの言葉に触れ大人へと成長していった。後に持論となる「人と比べるな」はこの教えの中で育まれたものであろう。

また甲府中学時代には、ロマンスもあった。妻である邦子さんとの出会いである。

邦子さんは東京から疎開のため甲府で暮らし、県庁に勤務していた。甲府中学へ向かう内藤とは毎朝すれ違っていた。いつしか二人は言葉を交わすようになり、やがてお付き合いが始まった。野球のことを全く知らなかったという邦子さん、この時はまさか自分がプロ野球選手の妻となるとは想像もしていなかった。内藤から「巨人軍に入る」という話を聞いた時は、どこかの軍隊の兵隊になるのかと勘違いし、たいそう驚いて心配したという。

その後二人は人生の「戦友」となり、料理好きで明るい邦子さんは、選手達へのまかないも惜しまず、内藤の野球人生を影から支え続けた。

我が家の子供達はナンバーワン

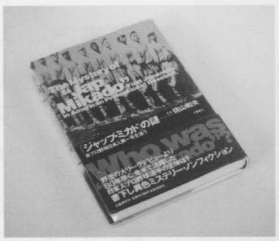
内藤もプロ野球という厳しい世界にいても、家庭では家族思いの夫であり、良き父であった。妻と一男一女の四人家族。とにかく家が一番好き。コーチ時代には、球場からユニフォームのままシャワーも浴びず、まっすぐ帰ってきた。

負けたから機嫌が悪いというようなことはなかった。家には仕事は持ち込まない。野球の話をすることはほとんどなかったという。

二人の子供達は内藤から怒られたという記憶がない。「何があっても相談しなさい。俺が全力で守るから」と励ました。ああしろ、こうしろということもない。「自分のやりたいようにやりなさい。それを全力でサポートするから」と、いつも見守ってくれていたという。

テストの成績が悪くても、それ自体を怒ることはなかった。「人と比べる必要ないぞ」。子供達にはいつもそう言っていた。

内藤にとって、自分の子供達は常にナンバーワン。人に劣っているとか、何



「ジャップ・ミカド」の謎　米プロ野球日本人第一号を追う

佐山和夫 著 ／ 文藝春秋 発行

日本人初のプロ野球選手　三神吾朗（左）

をしてはダメだとかではなく、大切なのは自分がいかに生きるかだと教えた。

家族思いの内藤ならではのエピソードがある。内藤は、プロ野球選手として現役を引退すると、野球界を離れ、山梨に戻りレストランを経営している。

当時、長女 里砂さんが誕生。邦子さんが大病の後だったため、内藤はたいそう喜んだという。さらに、男の子だと思っていたところに生まれたのは待望の女の子。ふだん酒を飲まない内藤が、この時ばかりは祝杯をあげベロンベロンに酔ったという。

好きな野球と離れても家族と一緒にいたい。レストラン経営は、家族とゆっくり過ごす時間を作るためのものだったのだ。

甲府駅近くで営んでいたレストランの名は「かいしゅう」。今となっては、かいしゅうの漢字は不明だが、おそらく「海舟」であろう。船乗りになりたかった若き頃の夢を託したのではないかと思う。

ふたたび野球界へ

しかし野球界がそのまま彼を放っておくことはなかった。

内藤は、間もなくサンケイアトムズのコーチとして野球界に復帰。以後、再び野球人として多忙な日々を過ごすことになる。もちろん、家族への愛情は変わらずにいた。家族が球場に観戦に来ると、コーチャーボックスにいる内藤は、人知れず家族にサインを送った。子供達はそれがとてもうれしくて、試合はそっちのけでユニフォーム姿の父を見つめていた。

野球評論家時代は新聞での連載を持っていた。映画を見ながら、片耳でラジオの野球中継を聞くのが決まったスタイル。しかし、目の前の原稿はいつまでも白紙のまま。子供達は心配しながら床に就くのだが、朝にはきちん原稿が仕上がっていた。

里砂さんが小学校の時、夏休みの宿題の作文を書いてと頼んだことがある。内藤は、それを叱るどころか「わかった！」とピンチヒッターを快諾。しかも、なんとその作文が見事に入賞。この時ばかりはピンチヒッターのクリーンヒットに親子で冷や汗をかいたという。日本各地で試合をするプロ野球選手は、一年の半分しか家族と一緒にいられない。内藤は、その分の愛を二倍にして家族に向けていたのかも知れない。

受け継がれる内藤イズム

家族への愛情は若い選手にも向けられていた。「一軍はいいところだぞ」と若手選手を励ましつつ、自分はそこに送り出す立場を貫いた。

内藤は、自分の一軍での初打席の感想をこう語っている「スタンド全てが真っ白に見えた」―。そんな緊張感と経験を多くの選手に味合わせたかったに違いない。内藤が愛情を持って育てた選手達は、今は指導者となり「内藤イズム」を継承している。

今、教え子である、栗山英樹は監督として7年目のシーズンを戦っている。その愛弟子である大谷翔平は、海を渡り、内藤がプレーしたかもしれないアメリカで新たな野球人生に挑戦している。

運命のイタズラが内藤を野球界に導き、そしてそのことが多くの人々に影響を与えた。家族を愛し、選手を愛し、野球を愛した内藤博文。その精神は次の世代へと引き継がれ、これからもプロ野球界に生き続けることだろう。

お話しをいただいた内藤里砂さんと御主人の大悟さん。

インタビュー

北海道日本ハムファイターズ監督

栗山英樹

人として成長すれば、何か絶対生まれてくるものがある

内藤博文は、若い選手達の育成に情熱を燃やし、野球人としてその立場を貫いた。現在もプロ野球界で「内藤イズム」を継承する栗山英樹監督に、恩師について聞いた。

内藤博文さんはどのような人でしたか？

一言でいえば「愛」のイメージですね。当時は、私も必死だったし、助けてもらったという思いしかなかったですけど、今、自分自身が監督の立場になって、二軍の選手に、あれだけの愛情を持って接していただいたというのは、ただただ感謝しかないです。

本当に温和でやさしい方だった。無条件の愛をもって接してくれたと感謝しています。

当時のプロ野球は、二軍選手の中でも一軍に上がる可能性のある選手が何もかも優先されますが、そんな中、一日の練習が終わって誰からも声を掛けられない私に、内藤さんは「さあ　クリやるぞ～」と言ってノックやバッティング練習に付き合ってくれました。それはもう本当にうれしかった。当時は人として潰れそうになっていた時なので、それだけで救われました。毎日暗くなるまで練習に付き合ってくれました。本当に感謝しています。

栗山監督は、内藤さんから「人と比べるな」という言葉で奮起したと著書にありますが、その時の心境などを教えて下さい。

ヤクルトスワローズ入団当時
（著書より）

内藤監督からは、色々な言葉を掛けてもらいましたが、言葉はいずれも印象的でした。当時は、同級生のドラフト1位の高野光選手が開幕投手となる中、自分は二軍でも試合に出られないという状況でした。そんな中、監督に呼ばれ「人と比べるな、おまえが人としてどれだけ大きくなれるかの方がよっぽど大事だ」と言われたんです。

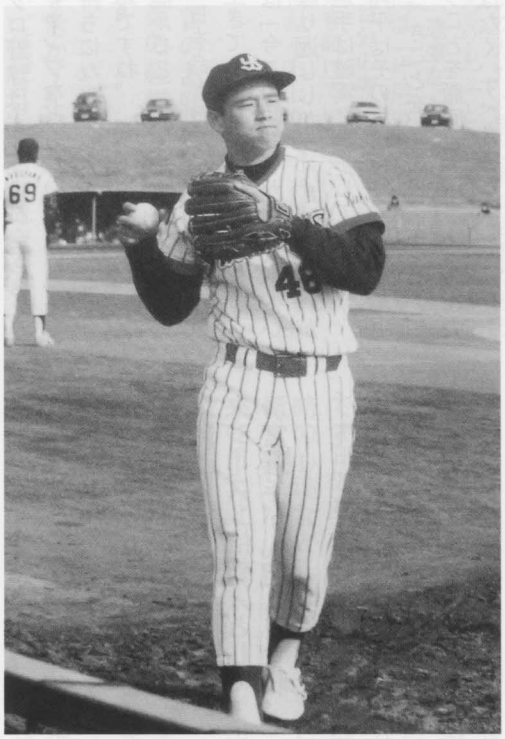
プロ野球は、もちろん誰かに勝たなければならないという競争社会ですが、そんなことはどうでもよくて、自分がどれだけ成長するかということが大切なのだという新しい価値観みたいなものを教わった瞬間だったので、それで、すごく楽になったし、怖くなくなりました。

そこから野球がすごく変わりました。自分がここにいていいのか？と悩みながら野球をするより、「今の自分が、少しでもうまくなればいい」と思えるようになってからは、自分の進むべき方向性みたいなものを持つことが出来ました。

甲府一高には「紳士たれ」との教えがあります。これはクラーク博士の言葉で、「自分で自分を律せよ」との教えなのですが、「人と比べるな」との言葉の根底には、この教えの精神が流れていると思います。内藤さんとの思い出の中に、我が校の校風を感じるようなことはありましたか？

そうですね、内藤さんは決して無理強いすることはなかったですね。こうしろとか、ああしろとか、ルールで縛るとか・・僕が今やっていることも、そんな内藤さんの影響を受けています。選手達には「規則に縛られるような、かっこ悪い選手になるな」と言っています。「自分で決めて、自分で行動する選手になってほしい」と。だからこちらはルールを定めない。内藤さんはまさにそういう考えの人でしたね。決して人を縛るようなことはしませんでした。

私は、人間力が上がれば野球もうまくなると考えています。内藤さんからも直接言葉で言われたわけではありませんが、結局　内藤さんがやろうとしたことはそういうことだったのだろうと思っています。


内藤監督と出会った頃（著書より）

北海道日本ハムファイターズ　鎌ヶ谷スタジアム

人として成長すれば、野球はもちろん、人生の荒波にのみ込まれることなく、何か新たなものをつかみ取れるんだって感じさせるものがありましたから…

今は自分が体験として感じてきたことを、言葉として選手達に伝えています。

栗山監督は、尊敬している三原脩監督の座右の銘である「日々新たなり」をご自身の信条のひとつとしていますが、実は甲府一高も、「日に新た」を校是のひとつとしており、校歌の歌詞の一節にもなっています。監督にとって「日に新た」の言葉には、どんな意味があるのでしょうか？

そうなんですか。「日に新た」の教えがあるんですね。

反省することは大切なことですが、同時に「しょうがねえ！明日はまた日が昇る！」とスパッと割り切ってしまうことも人間には大切ですね。

３６５日、毎日がお正月、毎日が１月１日という気持ちで一年間を過ごせたら、人間は良い方向に変わります。

「今年レギュラーをとってやる」と思っていても、毎日を漫然と過ごしている人間は徐々にモチベーションも落ちてきてしまう。でも毎日が「お正月」だと思って、日々新たな気持ちでいることができたら、きっとその人間は前進していくと思います。

特にプロ野球は、年間の試合も多く、練習もキャンプなども長い。だから、そういう気持ちになれるかどうかが、とても重要なんですね。

言い換えると「前後裁断」とも言えます。その日を命がけで、今がすべてだと思って生きていく。

人生は「今この瞬間をがんばる」というその繰り返ししかありません。それが出来る選手は確実に進歩していきます。

大谷翔平はその点が長けている選手です。やるべきことを、その日にキチンとやるということを徹底しています。技術力だけではなく、すべきことをしっかりとやれる人間だから「二刀流」も可能だろうと判断しました。

大谷選手は、どんなに疲れていても、朝10時にはトレーニング室に行ってウェイトトレーニングをこなしている。感心するくらい、しっかりとこなしています。

大谷選手ばかりでなく、結果を残す選手というのは、皆、そういうことが出来る選手達です。

栗山監督は「一塁まで全力疾走」のプレースタイルが大事だとしているのも、その意味からなのでしょうか？

大切なのは「習慣」です。逆にそれをやらないと気持ちが悪いとか、野球をやっている気がしないとか、いい選手は、最高の「習慣」を持っているわけですよね。

プロ野球選手がそれを普通にできなければ、意味がないですよね。

だけど、毎日漫然とやっているとそれがだんだんルーズになってきてしまう。それを今もミーティングしてきたところです。

来シーズンは新人として清宮選手が入団しますね。

木田ＧＭ補佐が良く引き当ててくれました。でも同時にとても大きな責任も感じています。

大谷選手の御両親にもよく話すのですが、僕が監督じゃなかったら、もっとすごい選手にしてあげられたかもしれませんと言っています。

大谷選手には「将来、アメリカに行くつもりなら日ハムに来い」と誘ったの

で、少なくともこの5年間はそのことを目標にやってきました。だから、メジャー挑戦ということになってホッとしています。翔平のために少しはチームが役に立ったと思いたいですね。でも、これぱっかりは翔平が引退する時に答えが出ることなんでしょうけどね。

大谷選手はインタビューで、日本ハムでプレーできたことは、遠まわりではなかったと言っていました。あと数年経てば高額契約が可能なのに、あえてこのタイミングでのメジャー挑戦というのも話題になっていますね。

翔平はお金のことは一切言わなかったですね。翔平とはメジャー挑戦については何度も話をしましたが、私も「お金のためだけなら行くな」と言っていました。彼もメジャーに行くのはそんな理由ではないとハッキリ言っていましたし、ほんとに最後までお金のことは言わなかった。それがかっこいいですし、野球を志す少年達にも夢を与えていると思います。

そうした「かっこよさ」があいつにはありますね。でも、今年は少し心配です。向こうに行っても大丈夫かな〜って(笑)

監督となった今、内藤さんの教えが、活きているなと感じることや、内藤さんからの影響を感じることはありますか？

一番は、人の想いとか、人の愛情が人を救うということを教えていただいたことです。

それは私が実際に体験したことです。内藤さんがいなければ私は壊れていたと思いますから。

だから監督として、その教えの実践を心掛けています。今までの6年間できているかどうかわからないですが、できる限り選手には声をかけて何か出来ること、手伝えることはないかと、背中を押してあげています。

それが、内藤さんにしてもらったことなので。私も監督としてそれをやっているだけです。

内藤博文氏との思い出が登場する著書の数々

栗山監督も、著書で何回も選手一人一人へのコメントを掲載するなど、とても選手を大切にしているイメージがあります。

選手達は、迷惑と思っているかもしれませんけどね〜(笑)

でも選手にどう思われようが関係ないんですよ。それは私にとってどうでもいいんです。それを考えていたらできなくなってしまいますからね。一方通行でいいと思っています。

選手一人一人に対して、僕のできることをやり尽くすということの方が私にとっては重要だし、むしろ、それができているかどうかを私は気にしなければいけないと思っています。

選手によっては、長々話をされることが嫌な人もいるでしょう。でも、今が話すタイミングだなと思う時は迷惑だろうと何だろうと「とにかく俺の話を聞け」って、遠慮なく話をします。

選手には「片思い」だと言っていますが、僕は自分の考えをちゃんと伝えるという作業を続けています。

選手にはそれしかしてあげられませんから…

栗山監督のお話には、監督というより企業の経営者のような一面を感じます。

組織を活かすために、選手を喜ばせてあげたい、活躍させてキラキラさせたいと思った時に、ヒントになることは実は野球の世界には少ないと思っています。

私は自分を指導者とは思っていないんです。マネージャーだと思っている。マネージメントをする側なのでどういう発想で選手を演出してあげるか、練習させていくかを常に考えています。

それって組織論であって、歴史の中にしかその答えはないので、当時はどうやっていたんだろうとか、あの時はこうやっていたのかみたいなことばかり勉強しています。

選手達には、日頃からよく本を読めと言います。その中のどこかにヒントやチャンスがあり、答えは歴史の中にちゃんとあるのです。野球界の中だけで探そうとすると幅が狭すぎます。僕自身も本で救われることが多いです。幅広く知識を広げることが人間力を高めていくことに繋がっていくと思っています。

栗山監督はちょうど50歳の時に監督に就任しています。同窓会幹事を務める我々もちょうど今50歳なのです。50歳からの挑戦について、当時の心境などを聞かせて下さい。

今思えば、50歳から挑戦が出来て良かったと思っています。

実はその時は50歳という感覚もなかったんです。やっと来たかという思いが強かったですね。

監督になろうという気持ちは全くありませんでした。ただ、プロ野球を引退後ずっと勉強を続けていたので、もしか

したら、いつかこの経験を活かして勝負する時がくるかもしれないとは思っていました。

だから、今まで学んできたこと、考えてきたこと、やりたいと思ってきたことが評価される時なのだという意味で、さあいよいよ勝負の時が来たと思ったんです。

だから年齢を気にすることはなかったですね。ここからがスタートだと思いました。大学に入ったぐらいの自分の気持ちでした。よし命がけでやるぞ！ってね。(笑)

ただ、今、監督になって6年経って思うことは、僕らの世代ってサラリーマンだとすると50歳代は終盤の時であり、監督への挑戦が人生最後の挑戦であってよかったなと思っています。

これが30歳、40歳だったとすると、まだ次のことを考えなければならない、自分のことを気にしなければならないじゃないですか。ところが50歳だったことで、自分がこの後どうするかということを考えなくてよかったですから。

僕は、今、明日クビになっても球団に感謝して辞めることができます。

自分の評価なんかより、私が選手達のため、どれだけのことができたかの方が大切だと。そう思える年代に監督をできたことがすごく幸せだなと思っています。

「人生に遠まわりはない」というのも努力家の栗山監督の持論ですが、50歳という年齢がいいタイミングだったということですか？

僕にとってはそうでした。周りの評価など一切気にする必要がないので。

ただ、それは今思えばです。(監督就任当時は)自分の感覚でいえば35歳ぐらいのつもりでしたよ。

「さあ行くぞ！」みたいなね。

私は、自分が能力がない人間だと思うんです。人が1年、2年でやれることが、10年ぐらいかかるタイプなのだと思っているんです。だから、ホントは35歳で勝負することを、50歳までかかっちゃったみたいな感じもありますね。

色々なことを長い時間をかけて勉強してきたんだけど、さあ、それが活かせるのか、始めて勝負させてもらえたっていう感覚だったのかもしれません。

そういう意味では、おもしろい勝負が出来るのは50歳からです！この世代の人達には、思い切って、勝負をしてほしいと思いますね。チャレンジしていたら10年ぐらいはあっという間に過ぎてしまいます。皆さんも、いつでも「さあ来た！これからだっ」という気持ちでチャレンジを続けてほしいと思います。

栗山監督のこれからの夢はなんですか？

夢はないかな～(笑)。夢はもう叶ってしまった気がしています。

夢ではないですけど　あるとすれば、これからも一人でも多くの人に役立ちたいなっていうことしかないですね。

野球界はまだまだ良くなるはずです。その為に何かできることをやりたいっていうのが夢ですかね。

一番は、若い選手達の夢を叶えるために役に立てたらうれしいですね。

彼らに「監督ありがとうっス！」って言われたときに、少しでも私がやってきたことに意味があったのかなと思える。人が喜んでもらえるのが一番うれしい。人が喜ぶ顔が見られるようなことをしていきたいと思います。

栗山監督のもとで育った選手はすばらしい指導者になっていくような気がします。

社長の仕事は、次の社長を育てるのが仕事と言われますが、私はそこまではまだできてないと思っています。ただ、僕みたいになったらダメだぞっていうのはありますね。反面教師みたいな。コーチたちにはよく僕の失敗を見ていてくれと言っています。傍らから見ていると僕のようなタイプの人間は不安だらけだと思いますよ。ただ、ひょっとしたら「この人を手伝ってあげなきゃって」というのはあると思います。それも自分らしさなので変える気はありません。逆に「監督のやり方ではダメだと思ったので私はこうしました」って言ってくれることは、僕はすごくうれしいです。

甲府一高生にメッセージをお願いします。

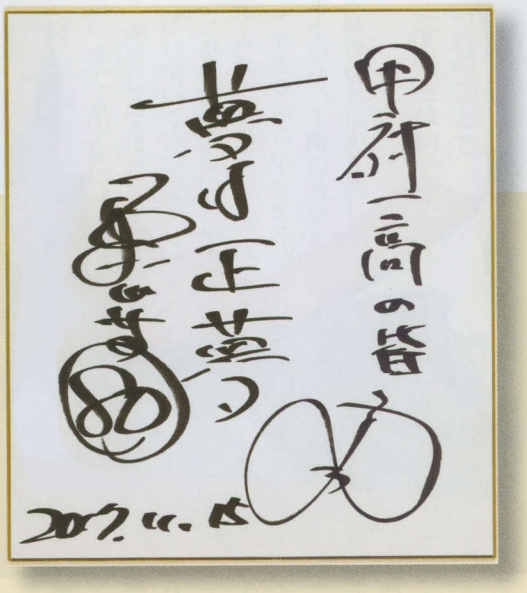
若い時に、難しいことや出来ないことがあるということは、実は幸せなことだと思います。そういう場面に直面しないと智恵も生まれないし努力も生まれない。プロ野球の世界にいると、逆に「出来てしまうこと」の難しさを、すごく感じています。最初から出来てしまうと、そこで成長が止まってしまう場合が多いからです。

高校生の時は、色々な壁にぶちあたると思います。でもそれを乗り越えようとする時、智恵が生まれ、何か大きなものが生まれてくるのです。だから、何か出来ないことや困難にぶつかった時はむしろ「ラッキー」と思って、それを克服するために、努力してほしいと思います。

それと、僕のような力のない選手が今でもユニフォームを着ていることを思うと、世の中には何にでも「可能性」というものがあり、何か思いもしないことが起こるという「夢」があるのだということも忘れないでほしいと思います。あきらめたらその時に終わるとよく言われますが、まさにその通りです。最後まで思い続けていれば「何か」が起こるかもしれません。自分がやりたいと思ったことをいつまでも大切にしてほしいと思います。

夢を追い続けた栗山監督。いただいた「夢は正夢」の言葉には、大きな人生のメッセージが込められている。

クラーク博士の教えを校是とする甲府中学出身の内藤監督に見出され、そして現在、クラーク博士ゆかりの地である北海道でプロ野球チームを率いる栗山英樹監督、運命の出会いから始まった二人の物語は今でも続いている。



栗山英樹（HIDEKI　KURIYAMA）

1961年生まれ。東京都出身。創価高等学校、東京学芸大学を経てヤクルトスワローズ（1984年-1990年）現北海道日本ハムファイターズ監督。

創価高校から東京学芸大学に進学、教員を目指していたが、プロ野球への夢をあきらめきれず入団テストを受け1984年にドラフト外でヤクルトスワローズに入団した。

入団当初はプロのあまりのレベルの高さに強い衝撃を受け、精神的にも肉体的にも追い詰められていたが、当時のヤクルトの二軍監督であった内藤博文との猛特訓により、やがてレギュラーポジションを勝ち取る。

俊足巧打タイプの選手で、華麗なダイビングキャッチなど闘志あふれるプレースタイルでファンを魅了した。一方、三半規管の難病であるメニエール症候群に悩まされ、闘病を続けながら試合に出場していたが、1990年、29歳の若さで現役を引退した。

引退後は、野球解説者に転身。理論的な解説でラジオ・テレビ・新聞など多方面で活躍した。2012年から北海道日本ハムファイターズの監督に就任。22年ぶりの現場復帰の上、それまでに指導者の経験は無く、メニエール病も完治したわけではなかったため、精神面、体力面で監督業ができるのか不安視する声もあったが、若手を積極的に抜擢するなど巧みな選手起用によって監督就任1年目でチームをリーグ優勝に導いた。2016年にはチームを日本一に導き、現在7年目のシーズンを迎えている。

甲府一高 × 筒井真理子

筒井真理子

（1960年～）

甲府一高1979年卒。甲府一高から青山学院大学へ進学するも、その後同大学を中退し早稲田大学へ入学。大学時代に演劇の世界に魅了され、当時早稲田大学演劇研究会で旗揚げしたばかりの第三舞台に入団。本番中にも関わらず楽屋を訪れて入団を直訴したとの逸話がある。

現在は、映画・舞台・CM・バラエティと多方面で活躍している。悪女から心優しい母親まで様々な人物を演じることができる女優として、その演技力は高く評価されている。2010年からは、山梨県の観光大使としても活躍している。カンヌ国際映画祭で審査員賞を受賞した映画「淵に立つ」では、毎日映画コンクール・ヨコハマ映画祭・高崎映画祭の主演女優賞三冠を達成する。代表作は映画「淵に立つ」「かぐらめ」、舞台「そして僕は途方に暮れる」、ＴＶドラマ「花子とアン」「監獄のお姫さま」、ＮＨＫ大河ドラマ「八重の桜」など多数。

インタビュー

女優

筒井真理子

という

挑戦

『お待たせしました～』待ちあわせの場所に、はつらつとした雰囲気とともに現れた筒井真理子さん。瞬時に周りを明るくする太陽のような笑顔の女性だ。

筒井さんは昭和54年に甲府一高を卒業、現在は実力派女優として、舞台に映画にと活躍している。筒井さんにお話しを聞いた。

高校時代のことで思い出すことは何ですか？

高校時代はとにかく楽しかったですね。1年生の時、1階の教室だったんですけど、その教室から中庭の花壇が見えてね、お手入れをされていたのは、大木先生だったと思うんですけど、サルビアの花がいっぱい咲いていて、そこに、太陽の優しい光が差し込んできて…その美しい景色がいまでも印象に残っています。思わず午後の授業では、ついうとうとっとしてしまうくらい心地よかったですね。

強烈な思い出といえば応援練習ですね。とっても怖かった。午前中から応援団の下駄の音がカランカランって聞こえて、午後になると、竹刀でバンバン壁を叩かれて、追い立てられるように教室を出て行きました。

応援団が入場する時の曲の始まり、吹奏楽部の最初のシンバルの音に飛び上がって驚きました。あの曲は今も忘れていません。いざ応援練習が始まると、ずっと手をあげていなくちゃいけなくて、そりゃあ、もう、本当に厳しかったんですよ。まさに質実剛健を地でいってますね。でも、あの厳しさは、振り返るといい経験だったと思いますね。

筒井さんはどんな生徒だったのですか？

お友達とはよく哲学的な話をしていました。ちょうど思春期で、自我の芽生えみたいなものを意識した頃だったからでしょうね。当時の女子学生はみんな好きでしたね、価値観の違いとか、デカルトの話とかをよくしました。それがとても楽しかったです。高校時代は、おもしろい友達がたくさんいました。

部活動は、フィギアスケート部に所属していました。ひとつ上の先輩達は国体に出場した実績がある部活動です。でも私達の代が潰したって噂もあるんですけどね(笑)毎日、甲府アイスパレスで練習をしていました。

印象的だったのは、夏合宿ですね。他の高校との合同合宿だったんですけど、練習メニューに、砂浜のランニングがあるんです。砂浜を走るのって、ものすごくきついんですよ。足は重くなるし、暑いし…

男子が前方、女子が後方に縦に並んで走るんですけど、私は女子の一番前だったんです。それで、必死に男子についていきました。Uターンして気づいたら、女子は私一人。はるか後方に女子達が走っているのが見えました。

そのおかげか、強行遠足は3年生の時には、3位になりました。1位は薬袋さん、2位は保坂さん、3位が私。そんなことも今では懐かしい思い出ですね。

てっきり文科系だと思った筒井さんだが、骨太な一面があるのに驚いた。

3位に入ったという強行遠足の話にはちょっとかわいい余談がある。2位の保坂さんとはとても仲良しで、ゴールまでずっと一緒に走っていたらしい。いざゴールとなった時、彼女が日体大の推薦を狙っていたため、少しでも上の順位の方がいいだろうと、先にゴールラインを踏んでもらったのだという。

その時の2人のやりとりを想像すると、微笑ましく思えてくる。

甲府一高での経験が今に活かされることはありますか？

甲府一高の質実剛健の気質の中で青春時代を過ごしたことは、劇団に入ってからとても役立ちました。劇団って、体育会系なんですよ～。ランニングで2km走ったり、ヒンズースクワット100回！みたいな。男子も女子も同じメニューをこなしますが、私はめげませんでした。質実剛健っていいですね。学生時代にしんどい方が社会に出てから楽ですね。(笑)

自由な校風の中で育ったことも私にとってよかったですね。いい意味での田

映画「淵に立つ」のワンシーン。筒井さんの圧倒的な表現力にストーリーに吸い込まれていく。

舎のおおらかさみたいな。私の女優仲間で子役を育てる仕事をしている人がいるんですけど、彼女いわく、田舎に行けば行くほど、子供達が自由でおもしろいんですって。ユニークな子供がたくさんいるんですって。それってなんなんでしょうね。自然の中で育つということが、人間には大事なのかもしれないなと思います。

あとね、一高では「自分で考える」ことを教えられましたね。一高は自由な雰囲気でしたが、その分、何でも自分で考えろって感じでしたね。自分で考えるってことは役者にとって、とても大事なんです。決まった答えなんてないですからね。そんな校風の中で高校時代を過ごしたことが、今の女優のお仕事に役立っていると思います。

筒井さんが、演劇と出会ったのは大学時代。早稲田大学演劇部の「第三舞台」の舞台をみてカルチャーショックを受けたのだという。「当時は劇団ってすごく元気でした。そんな時代だったんですね、小劇場がちょっとしたブームでした…」大学に進学し、東京での生活が進む中、周りが、みんな同じファッションに身を包み、個性がなくなっていくことに違和感のあった筒井さん。そんな中で出会った演劇は「余りにおもしろかった」のだそうだ。

劇団に入団の時は楽屋に直談判、しかしそこは本番中の楽屋で、筒井さんは外に連れ出されてしまったというのは有名なエピソードだ。その真っすぐな気持での入団以来、女優としてこの道を真剣に歩いている。

女優として大事にしていることは何ですか？

『芸も人』という言葉があります。女優である前に、人としてちゃんとしていることがまず大切だと考えています。みんな透けて見えてしまうので。舞台に出ても、映像の仕事をしても、人柄ってなんかにじみ出ちゃうじゃないですか。もちろん演技する上で、それがにじみ出ないように努力するんですけど、やっぱりベースになる部分として、「人としてちゃんとしている」ことが大事なことだと思います。

それと、仕事というものは、みんなで一緒につくり上げるモノなので、お互いを尊重する気持ちを大切にしています。相手の役者さんやスタッフの皆さんなど、「人」を大切にって思いますね。女優って、一人ではできない仕事ですからね。

では「女優」という仕事の魅力は？

女優ってホントにおもしろいですよ。実は、私は心理学が好きで、カウンセラーになりたいと思っていたんです。姉は実際ケースワーカーになっています。今でも心理学の勉強は続けているんですよ。というのも、お芝居って結局「人」を演じるので、心理学と切り離せないものだと思います。

例えば、私は「性同一性障害」の人を演じたことがあるんです。つまり、男なんだけど心は女という人の役です。最初「蕎麦屋の長女」って聞いていたんですけど、プロット（ストーリーの要約版）が来たら女の人が出ていなくて、結局、筒井さんの役は実は「蕎麦屋の長男」ですって言われました（笑）。

このため、最初はとても自信ないって悩んだんです。そうした人達の「痛み」がわからないと演じられないと思って。それに、実際に「性同一性障害」に悩む人達も、何も知らない私が、その役を演じていたらイヤだろうなと思ったんです。

それで、本を読んだり、「性同一性障害」を理解するために勉強して、本当にその人達の深刻な苦しみを始めて理解することが出来たんです。それは自分でリサーチしたり、研究したりしないとわからないことでした。自分が普通に生きてきた経験や知識だけでは、演じることは出来ない役ってあるんです。その時は、演じるために、心理学の本を読んだり、実際にその人にあってお話しを聞いたり、徹底的に研究します。

そうすると、今までの自分の価値観や、人ってこうするものだろうとか、自分だったらこういうセリフは言わないっていう、固定観念みたいなものが、逆に恥ずかしくなってくるんですね。

自分とはまったく違う思考回路を持っている人が世の中にはたくさんいて、その人の気持ちがわかった瞬間に自分の脳みそが「メリッ」という感じで大きくなる気がして、その瞬間が女優として一番楽しいですね。

そうすると、セリフを言う時にも「あ、ここはこんな気持ちなんだろうな」ってことが自然に湧きあがってくるんです。それが女優という仕事の一番の醍醐味だと思います。

ひとつの役を演じるためにはたいへんな勉強をするんですね。

そうしなければ「演じる」ことは出来ないと思います。人は小さいもので、狭い世界に生きていて、いつも学校や会社など自分のコミュニティの中で、何かしらの役割を持っている。例えば、課長、部長とか　笑わせ役とか、家庭ではお父さんの顔をしなくちゃとかね、ある意味、誰でも何か「演じていると」思うんですね。心理学でも、心のバランスを保つ治療で「他の人の役割を演じる」っていうロールプレイングの方法もあるくらいなんですよ。本当に、人って普段は狭いところで生きていると思うんです。

だから、演劇に取り組むと、世の中には自分と違う人間がいるんだなってことに気がつきます。他人を受け入れられるっていうのかな。「こんな意地悪をする人の気持ちなんかわからない」ではなくて、「ああ、この人はこういう気持ちなんだろうな」と、自分とは違う人がいるんだっていうことが理解できるようになるんです。多様性ですね。

でも、大げさですけど、世の中から戦争や争いを無くすことってそこだと思うんですよ。お芝居って、人を理解することから始まるんですね。それを知ることが出来て、お芝居と出会うことが出来てホントによかったと思っています。お芝居は楽しいですよ。大変ですけどね（笑）

女優業に真摯に向き合っている筒井さん。2016年に公開された主演映画「淵に立つ」では、謎めいた男性に翻弄される難しい役柄を演じ、高い評価を受けた。思えばこの作品では、母親としての女性、妻としての女性、謎めいた男性にひかれる「女」としての女性、それぞれの女性の顔を見事に演じ分けている。そこには「誰もが日常で何かを演じている」ということのメッセージが隠されていたのかもしれない。この作品では、8年の歳月の流れを筒井さんは自らの体重を増減させ表現した。この体あたりの演技に、当初は映画に「8年後」とテロップを入れる予定が、フランスのポスプロスタッフの方が必要ないとテロップ不要に変更になったという。筒井さんの女優魂を感じるエピソードだ。そんな筒井さんの夢とは何なのだろうか。

夢はたくさんありますね～。もっともっといろんな作品に出たいですね、海外の作品にも挑戦していきたいですね。だから今、一生懸命、英語の勉強をしているところなんですよ。他の国の人と、コミュニケーションが取れることは楽しいことですね。そのために、高校生の時から英語をしっかり学んでほしいですね。勉強して損なことって何もない。

東京国際映画祭で、私がカンヌ映画祭に行ったときに主演女優賞をとったフィリピンの映画監督さんの講演会があったんですが、聞いていてとても楽しかった。「モノづくり」に携わっていると、言葉は違うけど、話は噛み合ってくるんですね。何かを極めた人っておもしろい。世界におもしろい人がたくさんいますね。これからも大勢の人とお会いしたいですね。

一高には探究科が設置されました。国際的に活躍できる人材の育成が大きな目標です。

探究科が出来たのですね。グローバル感覚を持つことはこれからとっても大切なことです。カンヌ映画祭にも行きましたが、世界の多様性を感じました。探究するっていいですね、好きなことを徹底的に掘り下げて探究するってとても楽しいことです。お芝居もそうですから。演じるために、一人を掘っていくという作業がとても楽しいですね。どんな生い立ちなのか、どんなことを考えているのか…。「探究科」って、おもしろいと思う。なんか一高らしいなあ（笑）

女優以外にも色々なことに挑戦していますね。

何をやっても楽しいです。なんでもおもしろいです。私は、考えることが異常に好きなんです。もし何か失敗しても「じゃあ、何をしたらよかったのか」とか「次は、こうすればうまくいくんじゃないか」とか。失敗に学ぶみたいな。そこから考えることが大好きなんです。何をやってもそこから学べることがあるし、きっと、パズルみたいに色々なことを考えることが好きなんです。だから何をやっても「おもしろく」感じられるんですかね。

でも、今のようなお立場ですと、まったくのゼロから物事を教わるというのは大変ではないですか？

そっちの方がおもしろいです。知らないことを覚えていくことが楽しいです。今も、若手の俳優さんたちと一緒になってワークショップをしていますが、「もう何でも言って！」という感じで臨んでいます。若手の人の方が遠慮してて、ちょっとさみしいなって思ってます。

甲府一高生にメッセージをお願いします。

甲府一高の皆さんには、どんなことにも好奇心を持って、なんでも取り組んでほしいですね。失敗したことの中にも必ず糧になることがあります。ただ、そのままやり過ごしてしまうと、つまらないから、その時、ちょっと立ち止まって考えてみる。「次に何が出来るのか」って。そして、チャレンジを続けてほしいですね。

筒井さんから醸し出される雰囲気は、大女優のオーラというよりは、常に前進するはじけるようなワクワク感だと感じた。話している相手を元気にするような不思議なパワーだ。「休んでいる暇がない」という筒井さん。これからも色々なことに挑戦していくに違いない。そして、そこに、人生というものに真剣に向き合っている女性の姿を感じた。常に自分の人生を切り開いてきた人だからこそ、こんなに朗らかに生き方を語れるのだと思う。

高校時代には哲学を語り、自由な校風の中で育まれた精神は、演劇というライフワークの中でこれからどう変化していくのだろう。きっと、筒井さんにもそれはわからない。だから筒井さんはこんなに楽しそうなのだろう。

筒井さんは演劇を通じ、自分に何が出来るのかを試している。演劇が人を救うと信じている。筒井さんもきっと「女優筒井真理子」という自分が演じる人生の役柄に挑戦しているのだ。そのメッセージをこれからも見つめていきたいと思う。

がんばれ筒井真理子！

特集❶

探し求める

インタビュー×筒井真理子

「自由」校風に 出会い紡いで138年

この記念誌特集が生まれるまでの半年間、私はドラマティックな日々を過ごした。

多くの方々との出会いが、私達を栗山英樹監督へ、筒井真理子さんへ、内藤博文さんのご家族、内藤里砂さんへと引き合わせてくれた。それはまるで何か不思議な力に導かれているような気さえした。

思えば、人生とは、そんな不思議な「出会い」の連続だ。もし、内藤博文さんが、友人の代わりに巨人の入団テストを受けなければ、栗山英樹監督との出会いはなかった。筒井真理子さんが、あの日、第三舞台の芝居と出会わなければ、彼女もまた今ごろ違う人生を歩んでいたのかもしれない。

我が校は、故郷山梨の中で、最も多くの「出会い」を育んできた学校だ。今日までに40,000人を超える若者達が、あの学び舎で出会い、笑い、悲しみ、悩み、そして喜び、感動し、青雲湧き立つ日々を駆け抜けた。

そのひとつひとつが紡がれて今の甲府一高がある。

我々同窓生一人一人が甲府中学・甲府一高の伝統の伝承者だ。

古(いにし)へゆ雄心を伝え、いや高き望みを持ちて・・・県内屈指のエリート校として君臨した甲府中学。大きな戦争を経て、甲府一高となった時、新しい校歌や校章には平和への切なる願いと明るい未来への希望が込められた。

今回、二人の卒業生の生き方に触れ、私は、その気骨ある精神、潔(いさぎよ)いまでの明るさ、はじけるような行動力を感じた。その根源が甲府中学・甲府一高の教えにあるとするならば、我々にもそのDNAが刻み込まれているはずだ。

今、私は自分にこう問う。

もし、「あの頃に戻れたら何をするだろう？」 と。
そして、「それを、今から始められないのか？」 と。

輝ける青春時代。それは遠い日の灯(ともしび)ではないのかもしれない。

最後に、今回の企画にあたって、全くの見返りを求めずにご協力をいただいた、栗山英樹監督、筒井真理子さん、内藤博文さんのご家族の皆様にあらためてお礼を申し上げます。また、この三名に我々を引き合わせてくれた、多くのご協力者の皆様に心から感謝を申し上げます。

第138周年同窓会記念誌特集取材班

華麗なる時間旅行
特集2

日新カレーを求めて

青春の味

「カール」が食べられなくなった…。

カールといえばカールおじさんのコミカルなCMで有名な明治製菓の定番スナック。いつでもあると思っていたカール。でも、その姿はもう東日本にはない。

もう食べられなくなってしまったものは案外多い。子供の頃に給食で食べていたクジラ肉、おばあちゃんのおほうとう、閉店してしまった近所の中華料理屋のラーメン…そして「日新ホール」のメニューもそうだ。

日新ホールは、学校創立八十周年を記念して建てられた建物で、主には食堂として一高生に親しまれた。(我々の時代は二階がブラバンの部室&練習場と空手部の部室として使用されていた)毎日、大勢の生徒が押し掛け(ほぼ男子生徒)賑わいをみせた。一番のラッシュアワーは昼休みではなく、三校時と四校時の間のわずかな休み時間。人気メニュー(天丼やかつ丼)はほとんどその時間に食べつくされてしまい、肝心のお昼休みには、カレーかラーメンしか残っていない。お昼にはここでアイスクリームを買うのが楽しみだった生徒も少なくないはずだ。

その日新ホールは、平成五年の新校舎建設に伴い旧校舎とともにその歴史に幕を閉じた。

―日新ホールのメニューをもう一度食べることは出来ないか?―

ドラえもんのタイムマシンでもない限り不可能にも映るこのプロジェクトに、我々、記念誌部会は挑むことにした。数あるメニューの中から、再現するメニューを「カレー」に決定。

理由は、

①天丼やカツ丼(実はハムカツというのがふさわしい)などの人気商品は、ありつけた回数が限られていて味の記憶が曖昧なこと。

②ラーメンは、まずあの細いちぢれ麺+独特な食感のハムの入手が著しく困難であろうこと。

③チキンライスは、「魔法のソース」と言われた、常に卓上に置かれていた謎のソースをかけることによって初めて完成する味であり、このソースが、すでに謎であることから完全再現は不可能である。

…など消去法によるものである。

その日から「同窓会記念誌部会カレー研究班」の小さな戦いが始まった。研究員は、Y、J、Mの三人である。

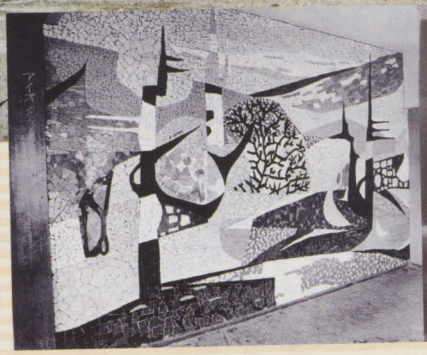
日新ホールのカレーといえば、あの独特な酸味に特徴がある。あの味は何なのか、ポイントはそこだ。

まず、当時のレシピから調査しようと、甲府一高全面協力のもと、日新ホールの経営者であった丸山良雄さんの消息を追った。

なつかしの日新ホールのメニューをもう一度食べることは出来ないか？

創立80周年記念
日新ホール

柱にはアイスクリームの文字が・・・



ホール入口を彩った須藤獏氏作のモザイク画

ホール内部の様子。懐かしいおいしい匂いが思い出される。

日新ホールは学校創立80周年を記念して建てられた。昭和36年3月に完成。

丸山さんは残念ながらすでに鬼籍に入られていたが、奥様がご健在であることが判明。早速連絡をさせていただいた。

奥様はご丁寧に取材に応じてくれたが、当時の資料は何も残っていないとのこと。ただ、丸山さんも、甲府一高の卒業生であることがわかった。丸山さんは母校で後輩達を見守りながら日新ホールを運営していたのだった。感謝である。

しかし、カレー研究班の調査は、この取材で早くも暗礁に乗り上げた。やはりここで頼りたいのはドラえもんのタイムマシンだ。

しかし、ドラえもんはいない。

考え抜いた次の策として記憶を頼りに実際にカレーを作ってみようということになった。簡単に物事をあきらめないのが、昭和四〇年代生まれのいいところだ。

まず、こう推理した。

カレー自体はサラサラ系だったので、カレー粉を使用していたのではないか。そして、あの酸味は例の謎のソースではないか？それならウスターソースで代用できるのではないか？

早速試作。しかし、イメージとは全く違う味のものが出来上がった。だがウスターソースはいい感じのようだ。

しばらく、カレー＋ウスターソースを基本ラインに試作を続けるが、なかなか理想の味に近づけない…。

「なんか最近カレー多くない？」と頻繁に食卓に出るカレーに娘からのブーイングが出始めた頃、新たな情報が入る。

「業務用カレーを使用していたのでないか？」と。

研究員Mが東京新橋駅近くの立ち食いソバ屋でカレーを食したところ、日新カレーの味に似ている！と直感した。研究員Mがソバ屋の店員に聞いたところ、「うちは業務用カレーだよ」とあっさり言い放った。メーカーは「ハウス食品」ということもわかった。

そこで方向転換。業務用カレーを調査してみることに。大手数社それぞれ業務用カレーはあるようだが、やはり主流はハウス食品のようだ。味は三種類あるが、バーモントカレーかインドカレーであろうとあたりをつけ、研究員Jが購入し、試作した。

出来たカレーは五十人前。さすが業務用である(汗)。研究員M、研究員Yのもとには、それぞれ二十人前のカレーが届けられた。

これには家族も唖然。またカレーかと、不穏な空気が流れた。

しかし、もはや後には引けない。バーモント、インド、はたして、どちらが日新カレーに使用されていたのか？カレーとウスターソースを混ぜては試食の検証が続いた。

やはりこれも違うのか…

あれっ、この味は…！

バーモントは正統派の味だが何か物足りない、インドは逆に味がしっかりし過ぎている。

むむっ、やはりこれらも違うのか…と、あきらめかけた瞬間、ひらめく。

「そうだ、二つを混ぜたらどうか！」神のお告げのようなひらめきが、功を奏した。バーモントとインドを混ぜると、程よいコクが出てなかなかいい感じである。名付けて「バーモ・インド」。これはいい。

そして幾度の試行錯誤の末ついにゴールに到達した。導き出された答えは「バーモント2＋インド1の比率に＋ウスターソース＝日新カレー」だ。

思えば、家族にも負担をかけた。我が家ではこれまで、毎週金曜日がカレーと決まっていた。潜水艦に乗務した自衛隊員が曜日感覚を忘れないために毎週金曜日をカレーにすることをマネしているわけではない。しかし、このところ、カレーの日が必然的に多くなり、我が家の曜日感覚はメチャクチャになっていた。

ここらで手を打とう。みんなもこれなら納得してくれるだろう。我々の努力はここに報われたのだ。これで終了だ。残るカレーは数人前。これをたいらげれば、しばらくカレーはいらない。我が家の曜日感覚ももとどおりだ。

翌日、達成感とともに残ったカレーをいただくことにする。今日はお祝いを兼ね、贅沢にカツカレーにした。

しかし、少し味も変えないと、正直カレーには飽き飽きしてきていたところだ。と、カツには気まぐれにケチャップをかけてみる。

すると…「ん！」「あれっ、この味は…！」

そう、ケチャップがカレーに混ざり、程よい酸味が出たのだ。「これだ！こっちだ！」

そこには懐かしい日新カレーの味がひろがっていた。そういえば日新ホールの定番メニューのひとつはチキンライス。ケチャップは大量にあったはずだ。そうか、ケチャップか！

我々は、ついにドラえもんに頼ることなく、三十年もの時を超え、懐かしい日新ホールのカレーに出会うことが出来たのだ。

五十才男三人の挑戦はこうして終わった。そこに漂っていたのはカレー臭ではない、まして加齢臭でもない。挑戦者のみが放つ華麗臭であった。

同窓会記念誌部会カレー研究班の結論は以下の通り。皆様お試しあれ。

日新ホール風カレーの味わい方

① バーモントカレー、インドカレー（ハウス）のルーを2：1で入れる。

2：1

② ひと鍋にケチャップ大さじ2杯をいれて煮込む。

③ 自分の分だけでそっと楽しみたい時

カレー一皿にケチャップを小さじ半分くらい 混ぜて食べる

カレー一皿にトマトジュースをひとさじくらい混ぜる

青春の味 日新カレーを求めて

特集
3

昭和61年卒版

一高あるある

1986年の思い出とともに

懐かしい学校生活を振り返り、
あんなことあったなぁという思い出話から、
「一高あるある」をまとめました。

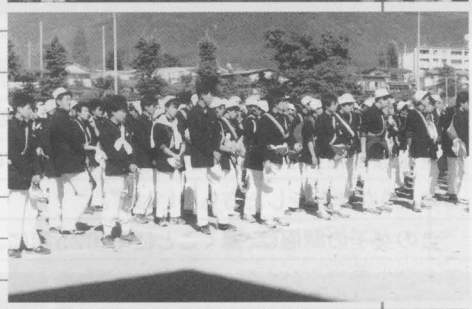
強行遠足あるある

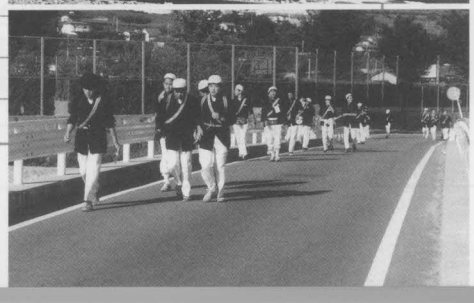
●24時間テレビのマラソンをみて、「100キロなんて、24時間あれば歩いていける!」と家族に豪語する。

●24時間テレビのマラソンのクライマックス、「あと残り4㎞か、なら歩いて1時間だな…エンディングに間にあうな」と、強行遠足の時間感覚がモノを言う。

●たまに、リンゴをピカピカに磨き上げてみる。

●一高出身だとわかると「100キロ歩いたの?」と、まず最初に聞かれる。(県内に限る)





昭和60年頃の強行遠足の様子▶

昨年91回を数えた「強行遠足」は、甲府一高の象徴ともいえる伝統行事。それぞれに思い出やエピソードがあると思います。質実剛健を地で行くような行事ですが、女生徒から渡される「お守り」、そして「リンゴ」のお礼といった、まさに青春の1ページといったかわいらしい風習もあります。

女子生徒から渡されるお守りの中身は、キャンディーや絆創膏といったもののほかに、手紙が入っているのですが、そこに書かれた文字が「小諸必着」と書くのは本命で、その他は「小諸到達」と書くというようなこともあったようです。男子生徒は、お守りのお礼にリンゴを持ち帰るのですが、好きな子には臼田検印所でいただいたリンゴを渡すというのが慣わしでした。

また、道路にチョークで友達や恋人にメッセージを残すということもしましたね。強行遠足前には学校中のチョークがなくなるというのも「あるある」でした。

当時の、男子生徒の恰好は、白いパンタロンに学ラン。そして白い体育帽という、思春期の若者が到底すすんで着用するはずのないものでしたが、何の抵抗もなく着用していたのは不思議です。

ある ある 応援練習

●「誰かが口笛吹いた」を聞くと、身が引き締まる思いがする。または、背後から応援団が来る気がする。

●「おまえらはまだ一高生じゃねえ!」と新入生はとりあえず最初に言われる。

●社会人になってからも、職場で後輩の声が小さいことなどがあると「ちっこい!!」と言いたくなる。

▲ 応援団の舞、ブラバンの音色、一高の応援には華がある。

当時の1年生の最初の試練は何と言っても「応援練習」。3日間、体育館に閉じ込められて、みっちりと一高精神を注入されたものです。正座のままの「わっしょい」では端になった人間は悲惨。ずっと片手で「8の字」をかかなければなりません。腕をピンと上に伸ばし、永遠と手拍子を続けることも地獄の苦しみでしたが、かわいい子は見回りの上級生が手を持って助けてくれるという「あるある」もあったようです。

苦しかった応援練習も終わってみればいい思い出。中学生から高校生へ気持ちを切り替える良いきっかけになっていたのかもしれません。

応援練習の後日行われる「新入生歓迎会」では、あんなに怖かった先輩達が別人のように優しくなっていて、たいそう驚いたものです。

一高応援のテーマソングといえば、「応援団入場!」の時などに流れる「誰かが口笛吹いた」のメロディーですね。この曲の正式名称は「フランス分列行進曲」または「Le régiment de Sambre et Meuse（サンブル・エ・ムーズ連隊行進曲）」と言います。吹奏楽部では略して「フラ分」と呼ばれていたようです。野球部にとってはこの曲はまさに「神曲」。この曲が流れた途端に勢いを取り戻し、逆転勝ちした試合が何回もありました。

ある ある 制服

●「あ、一高の子だ!」と思ったら附属中の女子生徒だった。という経験がある。

●女子はちょっぴりネクタイを小さくしてみる。

女子生徒の制服

冬　夏

▲ 初の女子生徒誕生当時の写真と制服のデザイン画

「かわいい」と評判の高い、一高の女子生徒の制服。なぜか夏服は山梨大学附属中学のそれと酷似していて、あるあるのような体験をした方も多いはず。

この女子の制服は、驚くことに昭和25年に、はじめて女子生徒を受け入れた時にデザインされたもので、今もそのまま受け継がれています。

デザインを手掛けたのは、当時女子生徒入学とともに着任した家庭科の川久保（旧姓保坂）欽子先生。この制服に込められた秘密は第130周年記念同窓会記念誌に詳しく掲載されているので、ここであらためて抜粋し引用させていただきます。

…白いシャツ・太い吊の紺色装スカート・紺色ブレザーに蝶ネクタイ。背中がVにカットされた太い吊は、肩から吊がずれ落ちにくく脇が締め付けられず通気性が良い。蝶ネクタイはネクタイのように前に垂れて邪魔にならないなど、実用面での配慮が随所にみられるほか、スカートのヒダは当時ほとんど見かけることのない「追っ掛けヒダ」を採用しました。ここに川久保先生らの深い意図が込められています。つまり「前の人を追っ掛ける」「次の人も前の人を追っ掛ける」その“追っかけるもの”は学生に最も大切な「勉強」です。というように「前の人を追っかけて勉強することで、皆が勉強すれば皆が良くなっていく」という意味が込められていたのです。…

物資の少ない時代だったので、夏服がタスキがけ状になったのは、生地を減らせる工夫でもあったのだそうです。

女子生徒の入学は、新しい時代の到来の象徴的な出来事のひとつであったことでしょう。女子の制服にこんな深い意味があったとは知りませんでした。希望に満ちた思いを込めてつくられた制服が、デザイン的にも色褪せることなく、今もなお着用されていることは喜ばしいことですね。

横店・前店 ある ある

●部活の終わりごろになると、脳裏にチェリオがチラつく。

●なにげに、前店派と横店派に分かれている。

●ファミレスのドリンクバーにいくと、全ての炭酸関係を混ぜてみたくなる。

●アンバサがあるとなおさらだ。

▲ いつも一高生で溢れていた前店と横店

一高生のオアシスとも言える場所が、「前店」と「横店」でした。校門の目の前にあったこの2つのお店は、校門から正面にある前店は望月商店、東側にある横店は中澤商店と、それぞれれっきとした商店名があるのですが、誰一人、正式名称を呼ぶものはいませんでした。きっと未だに正式な商店名を知らない者もいるに違いありません。

うまい棒、うどん、カップラーメン、アイス各種、おでん、テレビゲーム、横店のおじさんとおばさんのケンカ…様々に思い出されます。

炭酸飲料の定番は「チェリオ」ですが、前店ではコーラやファンタを紙ボトルに入れてテイクアウトできました。さらに、「コーラとファンタ！」などと要望すれば、2種類を混ぜたオリジナルドリンクを味わうことが出来るのでした。ドリンクは4〜5種類あり、「全部混ぜてアドベンチャー体験！」との手書きの張り紙がしてあったのですが、本当にアドベンチャー体験にチャレンジしたものがいるのかは定かではありません。

当時は、おおらかな雰囲気もあり、昼休みも校外へ出て昼食という生徒もしばしば。学校周辺には、たくさんの飲食店がありましたが、ラーメン店の「鳳華楼」は今でも健在です。創業から50年を超えるこのお店は、伝説的な逸話も残している有名店。現在は先代の息子さんがお店を引き継ぎ、変わらぬ味と一高生達の思い出を守り続けています。

▲「鳳華楼」は今も変わらない。懐かしい味をもとめOBが立ち寄るという。

行事・学園祭 ある ある

一高祭は秋に3日間の日程で行われていました。初日は体育祭、2日目と3日目は文科系の部活動の発表を始め、仮装行列や合唱、模擬店、早飲み大会、なぜか女装、男装を競い合う「ミスター&ミス一高」、そして「夕べのつどい」という、まるで教育番組のタイトルのような、クラス対抗のパフォーマンス競宴などで盛り上がりました。

「夕べのつどい」のように、古い言い回しの言葉が、時折登場するのも、伝統ある甲府一高の「あるある」なのかもしれません。

学園祭の締めくくりは「ファイアーストーム」。学園祭に使用した大道具やらなにやらの全てを燃やして、終わりゆく一高祭を惜しむのでした。

ファイアーストームは、弓道部の「火矢」での引火で幕開け、最初はフォークダンスでかわいらしく始まるのですが、応援団長の引き継ぎが行われると最高潮。応援歌や「わっしょい」で水を浴びながらの大騒ぎ。高校の学園祭のエンディングがあんな「バンカラ」な形で盛り上がるのは、県内では甲府一高だけだったのではないでしょうか。

ファイアーストームについて調べてみると以下のような説明がネットにありました。

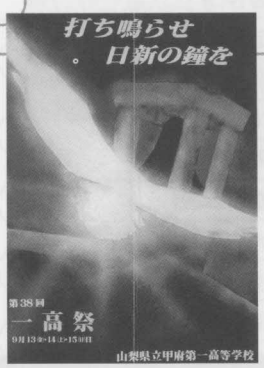
※ストームとは、日本の旧制高等学校や大学予科旧制専門学校、新制大学などの学生寮などにおいて学生が行う蛮行のこと。バンカラの一種。「storm」(嵐)を語源とする。「バカ騒ぎ」を基本とし、「俺たちはこんなに楽しいのだから、お前たちも一緒に楽しもう」といった類の連帯意識が底流にある。

…納得です。

でもこの気持ちって、大切ですね。

- ●1学期に1万メートル走、2学期に強行遠足…で3学期に駅伝大会をやると聞き「走ること多いなあ」と思う。
- ●「一高祭」というストレートな学園祭の名前に入学当初、違和感を覚えるも、慣れる。
- ●学園祭エンディングの「ファイアーストーム」のフォークダンスは始め恥ずかしがるが、結局、楽しんで踊る。
- ●で、結局プールに飛び込む。

▲ 華やかな一高祭のフィナーレを飾ったファイアーストーム



▲ クラスごとの出店、白熱の棒倒し、一高はとにかく走る

そして 究極の ある ある

- ●強行遠足がいくらつらかったとしても…
  応援練習がどんなに苦しかったとしても…

やっぱりみんな甲府一高が好き

これはもう説明の必要はありませんね。

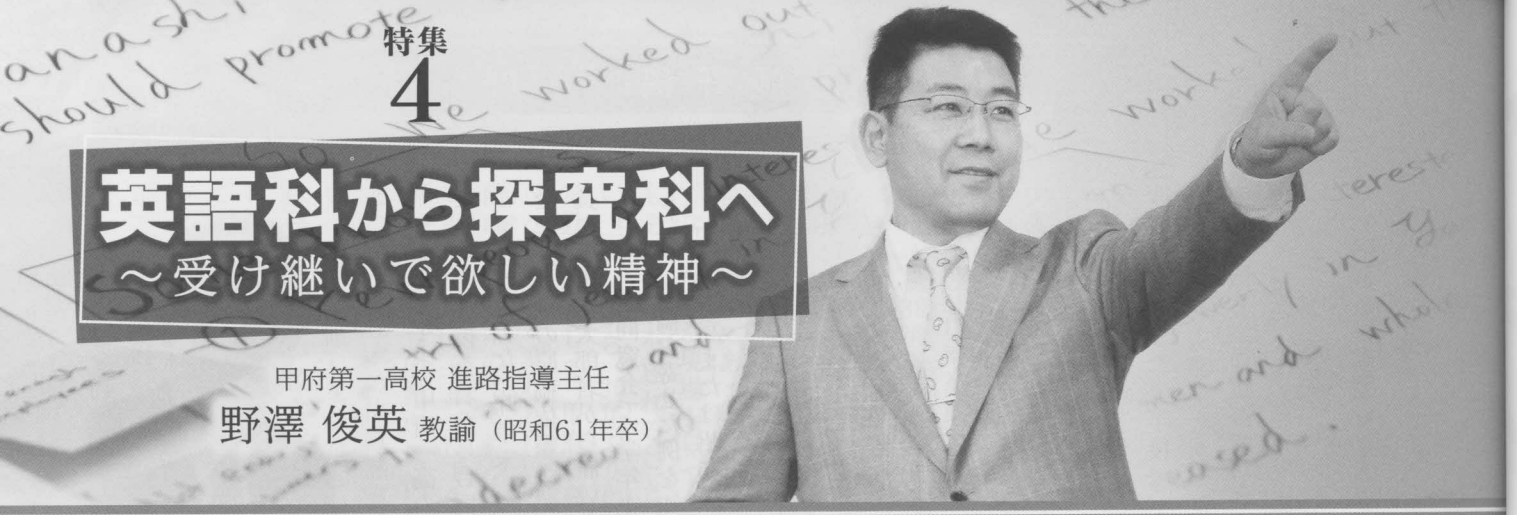
皆様「あ〜あるある!」というモノはありましたでしょうか?ここでの「あるある」は、あくまで昭和61年卒版のもの。どうぞご了承ください。

情報をいただきました皆様に感謝します。

いつの時代も、思い出を共有出来る仲間がいるということは何より嬉しいことですね。

特集
4

英語科から探究科へ
～受け継いで欲しい精神～



甲府第一高校 進路指導主任
野澤 俊英 教諭（昭和61年卒）

私は、平成22年に甲府一高に赴任し、以来今年で勤務9年目を迎えます。平成23年から3年間、英語科21期生の担任を務めました。また、平成26年、28年、29年には英語科主任を務め、私の甲府一高勤務は英語科とともにあったと言っても過言ではありません。英語科は、昨年度25期生をもってなくなり、探究科に発展的に改編されました。私が英語科に関わらせて頂きながら、英語科に期待してきたこと、また、今後探究科に受け継いでほしいことについて述べさせて頂きたいと思います。

英語科では、英語での発信力を強化し、英語によるコミュニケーション能力を高めることはもちろんのこと、グローバルな視野を持ち様々な社会問題にも興味を持って、それらの解決策を模索することも求められていました。私は、英語科の生徒と関わるときに、常にこうしたことを念頭に置いてきました。その上で、よく言われることですが、英語はコミュニケーションツールに過ぎず、「何を伝えるべきか」ということの方がより大切ではないかと考えてきました。また、グローバルな視点を持つ上で、不可欠なことは何かということも常に心に留めてきました。

これらを踏まえて、私が英語科21期生の担任を任されたとき、3年間生徒達に伝え続けてきたことがあります。1つは、「主体的に考え、行動する」こと。もう1つは、様々な問題に直面する時に発揮し実践すべき「寛容さと対話」の重要性です。

私が英語科21期生の担任をさせて頂いた時、入学式で、また、2、3年生の始業式の時に、「主体的に考え、行動する」ことの大切さについて話したことを覚えています。知識や情報を得ることは確かに大切ですが、知識や情報は時間の経過とともに陳腐化します。もちろん、知識や情報は考えるベースとしては大切ですが、より大切なことは、知識や情報を生かして自分自身の頭で考え、どこに課題や問題があるのかを見出し、その解決のために具体的に行動できることです。自ら進んで行動する時、人は大きく成長することができますし、本当の楽しさや達成感を味わうこともできます。

また、「寛容さと対話」の重要性についても、折に触れて生徒に話しました。これからのグローバル社会を生きる上では、異なる人種・民族の人々との共存が欠かせません。思想、政治体制、宗教、価値観が異なる世界中の様々な人々と理解し合うように努力し、共存を目指すためには、tolerance and dialog（寛容さと対話）が強く求められます。tolerance and dialog（寛容さと対話）の精神は、平和な貿易立国を目指す「小日本主義」を提唱した、母校甲府一高の大先輩である元首相・石橋湛山氏の考え方にも通じるものでもあるとも思います。

こうした「主体的に考え、行動する」ことや、「寛容さと対話」が求められる精神は、新しい探究科に確実に引き継がれています。生徒が主体的に選んだテーマを、自分たちで探究し、それを英語で発信していくという探究科のコンセプトは、まさに英語科においても重要視されてきた考え方が、具現化されたものです。また、探究することを通して、様々な考え方や見方、価値観があることに気づいていくプロセスは、まさに多面的なものの見方や複眼的な視野を身につけることに他ならず、tolerance and dialog（寛容さと対話）を発揮し実践する上でも、生かされるものであると確信しています。今後の探究科のさらなる発展と、探究科で得られた様々な知見が普通科にも還元されることを、心から祈っています。

思えば 遠い昔の事

学年主任　髙見澤 稔

一昨年の年末、甲府一高の教員をしている野澤俊英君から合同クラス会の電話があった。昨年末、今度は同窓会記念誌への原稿依頼が記念誌部会長の小田切太郎君から届いた。

甲府一高同窓会で、学年主任が出席したり、原稿を寄せた例を知らない。「甲府一高または昭和61年卒業生との思い出など」とのこと、少々困惑気味ではあるが、原稿依頼への責めを果たすことにした。

私が甲府一高に在学したのは昭和25年から28年迄今から60数年前のことである。61年卒業生諸君にとっては未だこの世に居ない歴史上の時代である。

第二次世界大戦が、三百万人を超える犠牲者を出して日本の惨憺たる敗戦に終わった数年後で、未だ連合国（米国）の占領下にあった。米空軍の爆撃機B29の空襲で日本全土が焼け野原、甲府も例外ではなかった。そして、世の中が昭和20年8月15日を境に価値観の転換など大きく変わっていった時代である。

甲府一高の前身甲府中学へ入る心積りで居たが、直前に学校が無くなってしまった。米国の指導により学制が変わって、新制中学校が出来た。

男女共学で全員を入れてくれる、と言うより入らねばならない義務教育一期生となった。

甲府一高へは中学で受けた県下一斉テストの成績によって入学することになった。新制甲府一高の実質一期生に、男女共学の一期生となった。

当時の学校の学習環境は劣悪であったが、雰囲気は非常に自由なものであった。占領下の不自由よりも、物資不足の不自由よりも、〝全体主義・軍国主義〟の息苦しさから開放されたことの方が大きかったのかもしれない。

もう一つ記憶に残っているのが校長のS先生のことである。甲府中学大正8年卒業の同窓生で私達の入学の年に広島大学から着任したカントの哲学の研究者であった。物静かで、格調高い含蓄に富む話をしてくれた先生との印象が残っている。

今でも覚えている言葉が「自己の確立」、「人間性の尊重」、「誠実と努力と辛抱強さ」などである。

そして更に「物事の真実に生きていきたい」、「自己には厳正にひとには寛容でありたい」、「真に人間的であるためには勇気が必要だと思う」などの言葉を残して、私達の卒業翌年の早春、現職52歳で別の世界へ逝ってしまった。

〝言うは易く行うは難し〟ではあるが、教員生活を続ける中で時に身を正すのに活用させて貰いながら、S先生のように後々迄生徒の印象に残る〝先生〟でありたいものだと時々思った。

担任は毎日生徒と接するので濃い人間関係が出来易い。学年主任は学年行事、授業で接するだけである。印象に残るような事もそう多くはない、その中から二つ。

スキー教室で定刻に遅れて来た優秀と目される3名の生徒をおいていった。翌朝の集合はいつもと違って殆ど遅刻者が無く効果は覿面であった。唯、見せしめ的で普段の私ならしないだろうことをやってしまった。

少々冷静さ、慎重さを欠いたかなと今でも時に思い出すことである。

ある夕方帰宅しようと車へ近づいたところタイヤに鋭利な刃物で刺されたような痕が残っていた。学年主任とは因果な仕事だなと思いながら、この事を知っているのは私ともう一人しかいないのだと心の奥へ仕舞って来た、遠い昔の出来事であった。

人生のある時期に3年間を共に過ごしたことは〝偶然の出会い〟とは言え、その事実は大きく重い事のようだ。それへの思いが出席要請、原稿依頼に応じようとする大きな動機になったことは確かである。

名もなき道を説くなかれ

3年2組担任　山本紘治

記憶をたどってみると、1986年は一高が総合選抜4校になって数年が経っていた頃で、私にとっては甲府一高の最後の学年担任の年であった。一高祭のファイアーストームに弓道部員による火の矢による点火が行われたこともあった。それまでに古い校舎、音楽堂、武道場、講堂、体育館と次々にあっという間に壊されてなくなった現場を見てきて、今でもその光景を忘れることはできない。一昨年から、30年ぶりに理科の非常勤講師として、甲府一高に戻ってきた。当時と変わらないのは正門の前に立つ5本のイトヒバと生徒くらいのものだ。イトヒバはT先生が元の甲府中学、今の県庁構内に植えてあったのと5本の位置感覚が違うといって植え直しをしたものだ。時代は移り、新しい校舎を象徴するように当時の生徒が教師として帰ってきて頑張っている姿はとても嬉しいものだ。生徒数は男女比が逆転（4対5）しているが、かつての生徒の雰囲気を今も残している（特に女生徒）。

当時流行っていた歌は「We are the world」だった。アメリカの有名な歌手がこぞって収録に協力した『アフリカの飢餓と貧困の救済にたちあがろう』というメッセージソングだ。

We are the ICHIKO, we are the children, We are the ones who make a brighter day So lets start giving, There's a choice we're making, We're saving our own lives, Its true we'll make a better day Just you and me,

と続いている。大学にこれから進み行く君たちに向かって何のメッセージもないまま一高の教壇で10年がたち、私は30代半ばになった。私は、自分の未熟さやセンチメンタルを悟られないように、ひたすら「受験の生物」を教える毎日だった。日々教師としての利得やアガペーを求めながら常に頭にあったのは、島崎藤村の「酔歌」の一節にある「名もなき道を説くなかれ」というくだりだった。教師として未熟であった自分が何かがわかった。何でもできるような錯覚を起こしてはいけないという戒めだった。それからO先生の指示もあり、「教師は背中で教育すべし」という話に感動して校内の植栽の手伝いをすることにした。草花を植え、毎日の水やりをするうちに生徒も手伝うようになってきた。そして正門前の通路左右のプラタナスが枯れたために、そこにハナミズキの苗木を植えることになった。ただ、入り口の土はとても硬く、穴を掘るのに難儀した。造園の人に手伝いと指導をしていただき、紅白のハナミズキを植えた。夏休みが近かったためその後の水やりにはとても苦労した。土日にはホースの水を出しっ放しにして事務室から水の無駄遣いとして注意されたこともあった。そのようにして私は自信を得ることができた。今では直径が20センチを超え立派な並木となって毎朝一高生を迎えている。紅葉が美しいこの通路を通るたびに、朝早く登校して水やりをしながら、「名もなき旅を行くなかれ、甲斐なきことをなげくより、来りて美き酒に泣け」の心境になれた。あれから30年が過ぎた今日もウィアーザイチコウの思いは離れたことはない。

このごろ思うこと

3年3組担任　齊木圭二

同窓会担当となられた皆さんが在籍していた当時の教室は、油を塗った木の床で窓枠も木製だったと記憶しています。梅雨時の教室は思いのほか薄暗く、後ろの席からは黒板の文字がはっきり見えないような状態だったことを思い出します。耐用年数を過ぎているということで、今の校舎に建て替えられました。しかし、正面の校章と「賛天地之化育」の文字版は、そのまま昔のものです。先般、担当学年の皆様による予備的な会が持たれて、当時担任であった先生方も招待されました。本当に久しぶりに、社会の中心力として活躍している卒業生にお目にかかり、活力漲る様子に、大いに頼もしさを感じたところです。

話しかわって、平成23年の東日本大震災については、皆さんの記憶にまだはっきりとしているのではないでしょうか。これまでに経験のない大きな地震でしたから、地震に伴う災害が大きいことについては、自然への畏怖として受け入れざるを得ません。しかし私が「そんな馬鹿な！」と思ったのは、津波による原子力発電所の事故でした。原子力利用の現場においては、万が一の事故も起きてはならないのは、担当する科学者はもちろん、国民全体が承知していたはずです。海水による水没で緊急用発電機の機能が失われ、冷却水が注入できずに炉心のメルトダウンを防止できませんでした。また原子炉を包む建物の圧力上昇を避けるための、排気ベントの作動も不十分で、原子炉の建物が爆発してしまいました。想定外の津波であったというのは、科学者の言い訳に過ぎません。想定外を克服するのが科学の力なのではないでしょうか。これまで日本の科学力は、世界的にも信頼できるレベルにあると信じていましたので、このことについては本当に驚きました。この事故の以前に、ロシア・チェルノブイリ原発のメルトダウン事故のことは大きく報道され、その事故の深刻なことは、世界的に知られていたのです。まさか、日本でこのような事故が起こるとは思いませんでした。私はこのことを契機に、「世の中少し変だぞ」と意識し始めたのです。

そして最近、大手自動車メーカーの、不適切な完成車安全検査、金属素材メーカーの規格に関する粗雑な品質管理。これらの事案は、今までの社会的信頼を裏切る大企業の所業です。日本製品に対する信頼が、大きく損なわれる出来事です。このように、いままで疑うことなく受け入れていたことが、否定されかねないことになったのです。工業規格のＪＩＳや食品規格のＪＡＳについても、疑い始めればきりがありません。

次に気になっているのは、国の財政についてです。平成29年の時点で国の借金は1千兆円に達しているというのです。国民一人が80万円以上の借金を背負っていることになるそうです。これの解消のための国の政策は有るのでしょうか。数年前から巷で声高に唱えられている、日本人の品格とか、政治家の政治力が低下してきたのかなどとも考えてしまいます。日本社会の平和に埋没して、人間性とか社会性が劣化してきたのでしょうか、とても心配です。

今年同窓会の当番に当たっている皆さんは、社会においてちょうど中堅の実力の世代、そして多分野におけるリーダーの世代です。原発の問題や、国の借金の処理については、是非もなく対応せざるを得ないのではないでしょうか。今の世代の負の事項を、皆さんの世代にお任せしてしまうのは、なんとも申し訳ない思いです。とは言え、今回の同窓会担当の皆さんが、社会において大いに活躍されること、平和な世界が続くことを心から願っているところです。

思い出すままに

3年4組担任　島口 邦昭

私は昭和58年4月に峡北高校（現在の北杜高校）から甲府一高に異動になりました。峡北高校では2年生の担任だったので、3年生に持ち上がりたいと考えていました。そのため、甲府一高への異動は私にとって不本意な異動でありました。

甲府一高では1学年に配属され7組の担任となりました。入学式の後、クラスで保護者と生徒を前にして自己紹介をしました。そこで「甲府一高は県下一の伝統校ですが、私にとっては家から29キロメートル離れた僻地校だ」と思わず言ってしまいました。家から遠くて通うのが大変だとの意味でしたが、僻地校という言葉が一人歩きして話題になったと聞いています。この7組には明るく活発な生徒が多く、楽しいクラスで、山梨で開催された、かいじ国体のアーチェリーで優勝した女生徒も在籍していました。

翌年は国立文系の2年4組女子クラスの担任となりました。韮崎高校に勤務したときに3年生の女子クラスを担任したことがありましたが、そのときは結婚して1年目で29才と若く女生徒の扱いにもなれなくて大変苦労をしました。今回は41才となっていたので余裕で担任をすることができました。生徒も女子クラスにありがちな対立や揉めごともなく、まとまりのある個性豊かな集団でした。3年生まで持ち上がりました。学園祭ではクラブ活動をしている者も、してない者も一緒になって準備に没頭し、大学受験は大丈夫かなと心配になるくらい燃えました。学園祭を通じて達成感を味わい、クラスの連帯と帰属意識を高めました。山梨県高等学校英語暗唱弁論大会の暗唱の部で、英和高校の生徒をおさえて優勝した英語の得意な生徒もいました。

2年目からは係文掌が生徒指導係となり3年間副主任をしました。生徒指導主任となった先生方は毎年教頭として昇任しましたので3人が替わりました。いつしか生徒指導係の内容等にもっとも詳しくなっていました。早朝の登校指導や無許可単車通学の取締り、校舎内外での喫煙補導などが思い出されます。

先生方の中には、他の高校で一緒に勤めた先生も何人かいました。学年主任の高見澤稔先生は私か新卒で母校峡北高校に勤務した時に、同じ1年生の担任として机を並べました。教員としてのイロハを教えていただいた先生でしたので大変心強く感じたものでした。甲府一高最後の年には、望月正広先生が校長として着任しました。都留高校では1年目には進路指導室でご一緒し、翌年は1学年主任の先生と担任である私は机を並べました。

甲府一高は生徒も先生方も文武両道を旨とする校風を良く実践し雰囲気も良かったので、学年末の人事異動で転出希望を出す先生は毎年ほとんどいませんでした。私が韮崎高校へ異動した昭和62年も転出希望を出しだのは私を含めて2人だけだったと記憶しています。私の後任は郡内の高校で4年間の僻地勤務を終えた、私が推薦した峡北高校時代の優秀な教え子に決まりました。

甲府一高勤務は4年と短いものでしたが、沢山の教育熱心で優秀な先生方と知り合うことができました。その後も私の長い教員生活を通じ何かと親しくしていただき、今でもその絆は貴重な財産となっております。私の母方の祖父・清水鉄次郎が修身の教員として甲府中学に勤めたことがあるので、今では祖父と同じ学校に勤務できた幸せをかみしめております。

当番幹事の皆さんは、指導的な立場に立って活躍し、人生で一番脂の乗った充実した日々を送っていることと思います。この度、甲府一高同窓会総会を成功させるための準備をする中で、同窓意識が強固になるとともに皆さんの友情がさらに一層深まりますことを願っております。

甲府第一高等学校に思いを寄せて

3年5組担任　高瀬 司郎

私が甲府一高を卒業したのは１９６２年。有難くも母校の教員として１９７８年から１９８６年まで８年間勤務させてもらった。また畏れ多くも母校の管理職として２００１年から２００４年まで３年間在職させてもらった。それぞれの時代に思い出は尽きないが、特に甲府一高の「百周年記念誌」の執筆委員の一人になり、大島正健校長の頃を担当執筆させてもらったのは良き想い出である。貴重な経験であった。

１９８６年（昭和61）３月の卒業生を送ったのは31年前になる。この年度の生徒は、１年次から３年次まで３年間のお付き合いであった。この年度の学年のスタッフは一高へ来られて間もない先生方が多かったように記憶している。１年次の愛宕山宿泊研修、スキー教室、２年次の研修旅行など係りの仕事も多かった。また、２、３年次は理系の３組に対し、文系の４、５組の片方の担任として「成果」も求められストレスも正直あった。人に任せておけないとばかりに、昼のＳＨＲの時に短い英文を読ませたり、専門の世界史以外に日本史も担当するなど、今思えば若さの驕りや焦りがあったのかもしれない。

１年次の入学式の担任挨拶に生徒・保護者に向けてお祝いの席ながら、一高の進学実績の状況を説明し１年生から本腰で学習に取り組む必要性を説いたことや、３年次の卒業式に担任挨拶として、人間の「運命」について持論を展開したことなど今でも覚えているので、思い入れも浅くない学年であった。学園祭で５組の生徒がチェッカーズの「涙のリクエスト」を歌った頃だ。長身のＡ君の自作の衣装、世界史の得意だったＫ君のサキソフォン。セピア色の思い出となった時代ではあるが、この年度の卒業生が３年生であった１９８５年は日航機の大事故や、それに続くレーガン大統領の頃の「プラザ合意」があった年であった。今思えばこれがあの「バブル経済」や「バブル崩壊後」の厳しい時代に続くとは誰が予想したであろうか。

１９８６年に皆さんを送った後、私も色々な事がありました。色々な学校も経験しました。そこで一高の良さと同時に一高にないものも見ました。管理職として養護学校（今の支援学校）で目にした、人生観が変わるほどの衝撃的な経験は別にして、甲府総合選抜の一角であったＨ高や富士吉田の総合選抜の一角のＦ高は、総合選抜校としての甲府一高の在り方に思いを馳せる契機になりました。「伝統」の浅いＨ高やＦ高の校歌はどちらも現代風で軽快・斬新な校歌でした。「僕らはみんなやって来た～」の調べは我が校歌「甲斐の国のみ中に立ちて～」とは趣がまるで違います。また、Ｆ高の保護者は教職員と親密で温かく教職員と共に学校を育ててゆく心根を感じました。いずれも「伝統」にしがみ付くのではなく育てて行こうとする気概を感じました。「伝統」とは会計学上のＧＯＯＤＷＩＬＬ（「暖簾」）に相当するものかと思いますが、我が母校も「伝統」を現代の生徒の教育にどう生かしていくのか、学校の経営に力量が問われることでしょう。

甲府一高に教員として赴任した頃教えた生徒が今は、私立進学校の校長として活躍している現在、私はといえばもうすぐ後期高齢者。体のメンテナンスに気を配りながら、趣味と言えば細々続けてきた囲碁。10年ほど前に６段の免状を取得して以来、最近ようやく７段の認定を受けて気をよくしている次第です。あれもしたいこれもしたいと気持ちだけはありますが思うようにいきません。思えば将棋のみならず囲碁でも韓国や中国の世界トップ・プロがＡＩ（人工知能）に勝てない時代になりました。物凄い時代に突入しかけているのでしょう。そんな新しい時代を予感しながら、さぞかし立派になられたであろう卒業生の皆様の今後のご活躍を期待し、母校の益々の発展を祈念いたします。第１３８周年同窓会実行委員の皆様ご苦労様です。私ももう少し頑張ってみようと思います。

往時茫々
―思い出すままに―

3年6組担任　齊藤幸三

第138周年甲府中学・甲府一高同窓会の開催、誠におめでとうございます。テーマ「想い、未来に紡ぐ～桜の誇り、四葉の望み～」に、甲府中学から甲府一高へと連綿と続いてきた歴史・伝統の重みをひしひしと感じます。

私は昭和58（1983）年から6年間（最後の1年は中国四川大学で日本語指導）甲府一高にお世話になりました。この間お二人の校長先生に仕え、ご指導をいただきました。山村鉄夫先生と望月政廣先生であります。山村先生とは同じ年の赴任だったと記憶しております。先生は着任式か何かの折に全校生徒を前に、

春風や闘志いだきて丘に立つ　高浜虚子

の句を引いて挨拶されました。今もその事が懐かしく想い出されます。望月先生には1学年の主任としてご指導を、時には厳しいご指導をいただきました。

生きることは一と筋がよし寒椿　五所平之助

この句は望月先生が先生方のある会での挨拶で引用されたもので、当時強烈な印象を受けたことを覚えています。

お二人の校長先生の引かれた二つの俳句は、教員としても人間としても若く未熟だった私に、後に肥やしとなってじわじわと効いてきたように思います。

もう一句。同窓会というときまって想い出される作品に、

ともどもに月日はるけき小春かな　飯田龍太

があります。この句には「卒後五十周年、同窓諸友の求めに」という前書きが付いています。言わずもがなの事ですが、龍太先生は甲府中学の同窓生。昭和13（1938）年に卒業されています。〈卒後五十周年〉というと昭和63（1988）年、龍太先生68歳の頃のことかと思われます。一句は、中学卒業後永い月日を皆元気に過ごしてきたことだ。ぽかぽかと暖かい初冬の小春日和がそのことを祝ってくれているようだといった同窓会を寿ぐ内容かと考えます。

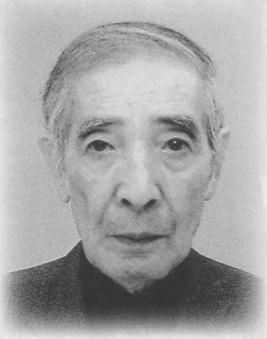
さて、第138周年同窓会の当番幹事の皆さん、皆さんとは昭和59（1984）年から3年間のお付き合いで、学級担任をさせてもらいました。個性豊かな皆さんと共に3年間、私もそれなりに成長させてもらったのかなと思っています。学年主任は高見澤稔先生で、先生には多方面にわたってご指導をいただきました。記して感謝申し上げます。

甲府一高勤務まで、私はどちらかと言うといわゆる町場の学校勤めをしたことはありませんでした。初めての町なかの学校が、質実剛健、自主自律、日に新たを標榜する甲府一高であってみれば、カルチャーショックを受けるのも当然の事のように思われました。学級担任の最初は1年1組だったと記憶しております。「甲府一高一学年一組、出席番号一番」などとホームルームではよく言っていたものでした。教科は国語でしたが、勉強せえ、勉強せえとばかり言っていたように思います。

部活動ではハンドボール部の顧問を専門の千野恒夫先生とさせていただきました。千野先生に指導してもらいながら、素人の私は女子と共にハンドボールを楽しんでいました。総合体育大会で1、2回戦勝って3回戦は総体2日目、この2日目に公欠というのは部員たちにとっても顧問の私にとっても愉快なことでした。

まだまだ想い出さねばならぬ、書かねばならぬことが沢山あるように思います。強行遠足、卒業後の進路、個人的には自宅の焼失などなど。甲府一高は私の教員生活に豊かな彩りを添えてくれました。何もかもひっくるめて甲府一高に、そして第138周年甲府中学・甲府一高同窓会当番幹事の皆さんに栄えあれと記して筆を擱くことにいたします。

ありがとうございました。



3年7組と甲府一高のこと

3年7組担任　荻野　秀男

「3年7組のこと」

昭和60年4月、母校である甲府一高に赴任し、担任となったのが3年7組でした。自分も生徒たちも、まったくの初対面同士ということですが、新入生との初対面同士とは違います。これまで2年間の高校生活を経験してきた17歳の若者としての思慮もある生徒たちです。

生徒は44名（男子21名、女子23名）、担任から見ると1対44、しかし、生徒から見ると1対1であるという関係を忘れないようにしました。そのために、できるだけ早く生徒たちの名前と顔を一致させるよう努力しました。数日は顔写真を見続けました。

既に2年間生徒たちと接してきた先輩の先生方から、7組の生徒のいろいろな情報をいただきました。男子生徒の情報が多かったように思います。ありがたいことでしたが、その情報をもとに生徒たちを見ることはしませんでした。白紙の関係から出発しようとしたのです。このことは初めに生徒たちにも話したと記憶しています。生徒たちも私の反応を試したのかも知れませんが、家庭謹慎になりそうな秘密にしておかなければならないようなことも打ち明けてくれました。秘密の共有です。

わずか1年間の生徒たちとの関係で、7組の生徒たちにとって、担任としての私がどんな存在であったのか知る由もありませんでしたが、卒業直後、何人もの男子生徒が自宅に来てくれたこと、同級生同士の結婚の仲人を務めさせてもらったことなど、7組の担任であったこととして忘れられないことです。

昨年、同級会があり招待していただきました。参加人数は多くはありませんでしたが、皆それぞれに人格を感じることができ、満たされた思いを抱いて懐かしいひとときを過ごすことができました。

「甲府一高のこと」

昭和35年3月に卒業してから25年ぶりに一高の校門をくぐることになりました。正面から見る本館の眺めは当時のままでした。教師としての就任期間は昭和60年からの9年間でした。この間の出来事で印象的なことが2つあります。

1つは強行遠足のことです。多くの一高の卒業生が思い出として語るのが強行遠足のことですが、私の場合は因縁とも言えるようなことです。私の高校時代と現在とではコース、ゴールのあるなし、交通事情など、条件も状況も違いはあります。高校時代、長い伝統をもつ強行遠足はこれまで中止がたった1度しかないと聞いていました。それが、高校3年の時、2度目の中止に遭遇しました。台風による県内の甚大な被害の結果でした。3度目は一高に在職中で天候不順による中止でした。この中止は納得できない生徒たちが歩き始め、それを支援する保護者たちもいて、後日、新聞でも取り上げられることになりました。生徒であった時と教師であった時、稀な中止の2度に遭遇したのは不思議な因縁です。

2つ目は少年時代の憧れであり懐かしい本館の解体に立ち会えたことです。時代の移り変わり、教育環境とは言え、威厳を誇るかのような校舎が日々形を失っていくのを見ることは寂しいことでした。あの薄暗い館内と東西の狭い階段は一高の歴史そのものでした。PTAの役員の方々と相談し、本館の模型を残すことにしたのもこの時です。

新しい校舎は明るくいかにも近代的な感がありました。多目的使用の室の名称を決めるとき、当時はカタカナの名称が流行していたのですが、日本語の名称にしてくれるよう意見を述べたことを思い出しました。

今となって一高を思い出すとき、いちばん先に浮かんでくるのは、校章の輝く正面から見る本館の姿です。

中富伝説破れたり
―近況とあの頃の自分のこと―

3年8組担任　中込 富夫

第138周年甲府中学・甲府一高同窓会総会の開催、誠におめでとうございます。また、昭和61年卒業生の皆さん、当番幹事ご苦労様です。総会の成功を祈念いたします。私は、一高に10年間勤務させていただきました。その間、3学年の担任を4回させていただいたので、今回は私の近況と当番幹事の皆さんと過ごした3年間の自分のことを書かせていただきたいと思います。（記憶を美化している点や曖昧な点などがあると思いますが、ご容赦ください）

近況について

青年教師だった私も、定年退職後、3年目となりました。今は、家庭菜園程度の農業とゴルフと旅行を楽しみに余生を送っています。農業は、先祖代々の土地を耕作放棄地にしておくわけにもいかず、再就職を断って始めました。微農薬を基本に、花と野菜をほんの少し、妻の名で「道の駅とよとみ」に出荷して楽しんでいます。赤字経営です。ゴルフは、仲間との親睦が主の下手の何とかですので、ここではこれ以上書けません。旅行は、子どもも一人前になったので、「不為児孫買美田」と決めて、元気なうちに厳しいところをということで、一昨年はチベット側5400mから、昨年はネパールの3800mからヒマラヤを眺めてきました。次はサハラ砂漠で駱駝に乗りたいな、など思っています。健康なうちにと思い、少しの無理とわがままをさせてもらっています。

一高の思い出（最初の3年間）

私は、当番幹事の皆さんが入学された年に、28歳で、一高に赴任しました。当時は、教員の仕事が自分には合っていないのではないかと悩んでいました。今思えば私がわがままで要領が悪かったということなのですが、居心地の悪い日々が続いていました。例えば、赴任してすぐ、部で不祥事がありました。生徒は被害者でしたが、ある先輩の先生から「内々に処理するのが顧問の力だ」と面と向かって言われました。また、生徒と学園祭の準備をしていて別の先生に呼び出され「学園祭は生徒がやるものだ」と言われたりもしました。その上、アマチュア無線のアンテナを付けた赤いスポーツタイプの車に乗っていたので、校長室に呼ばれ「君は暴走族かい」と言われる始末でした。学年主任の高見澤先生にも「中込さんもいろいろあるけど、頑張っているから生徒と一緒に進級させよう」などと冗談半分に言われながら、何とか3年8組の担任になれたという状況でした。教員になりたくてなったのですが、この状況が続けば、辞めていたかもしれません。

しかし、3年8の1年間が終わった後、事態はだいぶ変わっていました。私自身成長したという実感はありませんでしたが、教師を続けるかどうかの迷いはなくなっていました。

その契機の1つとなったのが表題の「中富伝説破れたり」だったと思っています。これは強行遠足の時の3年8組の垂れ幕の言葉です。彼らの認識では過去2年間、私のクラスの完走率は低かった。その歴史を覆すという意味でした。結果は○○君が臼田でストップした以外は、男女とも全員が完走。（○○君はつらかったでしょうが、かえって人生における糧になっていると信じています）。私は彼らの反面教師的存在だったわけですが、「生徒が生きる（生徒を活かす）ことによって自分（教師）が生きる」ということ教えられた体験でした。その他にも、8組は進路面でもほとんどの生徒が現役で進学・就職を決めてくれましたし、部の方は2年の時、高校総体でベスト4にまで進出してくれ、私を後押ししてくれました。

今思えば、私自身なにができたというわけではありませんが、教師としてのスタンスが見え始めてきたのがこの時期でした。その意味で思い出深い3年間です。

教員生活8年目でした。

甲府一高と私 そして、石橋湛山

3年9組担任　浅川　保

私が甲府一高に在職したのは、1980(昭和55)年4月から1991(平成3)年3月までの11年間、ちょうど、30代の後半から40代の後半にかけてで、30余年経ち、72歳となった今思えば、教員として、一番充実していた時期であった。

教えていた教科が、社会科・日本史だったので、主に3年生、2年生を担当することが多かった。1986(昭和61)年卒の君たちとは、日本史の授業を通して、また、3年9組の担任として1年間の付き合いだったかと思う。

30余年前の君たちは…を思い出そうと自宅の一高時代の段ボールを開けてみたら、「1985年度・3の9クラスノート」が出てきた。ノートの最初は、1番の石川充君の「コロンブスが卵をおったてるずっと前から、物事を最初に始めることは難しかった」の書き出しで始まり、「高倉健さんがかっこいい」で終わっている。なかなか読ませる文章である。

以下、次の市川憲司君から…45番の渡辺春美さんまで、だいたいが1人1ページだが、中には、絵も入れて、3ページも書き連ねる達筆家もいる。自己紹介や進路のこと、勉強が思うように進まない悩み、部活や友だちのこと、強行遠足のこと等々、いろいろ書いてあり、30余年前の一高時代にタイムスリップしたような気分になる。同窓会当日、ノートを持っていくので、どうぞ、一高時代の自分と対面してみてください。

それから、一高の生活で忘れがたいのは、君たちを送り出した年の10月、百周年記念館2階の資料室で、石橋湛山の中学時代の文章に出会った(発見した)ことである。1895～1902(明治28～35)年、山梨県中学(甲府一高の前身)の生徒だった湛山は、当時の『校友会雑誌』に「石田三成論」「湛山随筆」など7つの文章を執筆した。それらの文章の、中学生離れした鋭い視点と明快な主張に驚き、以後、湛山に傾倒、『石橋湛山全集』全15巻を買い求めて読み進めた。また、県内各地の湛山にゆかりの場所(富士川町の昌福寺、南アルプス市鏡中条の長遠寺、身延山の久遠寺等)を訪ね、資料を集めるなど、今日に至る、湛山との長いつきあいが始まった。

石橋湛山は、一高出身で、札幌農学校出身・大島正健校長の「Boys be Ambitious!」の薫陶を受け、ジャーナリスト・政治家(55代首相)として活躍した人物として知られているが、現在では、さらに評価が高まり、「20世紀日本の言論界・思想界を代表する稀有の人物」(鴨武彦元東大教授)「日本国憲法の精神の先駆者」(松尾尊兊京大名誉教授)とまで、評価されている。

この間、湛山について各地で話をする機会が与えられ、また、自分なりにまとめたものを、1993(平成5)年には『若き日の石橋湛山』(近代文芸社)、2008(平成20)年には『偉大な言論人 石橋湛山』(山梨日日新聞社　山日ライブラリー)として上梓した。関心のある方はお読みください。

また、2007年5月には、甲府市朝気1丁目に、800人に上る有志の寄付・浄財で、民立民営のNPO法人・山梨平和ミュージアム～石橋湛山記念館が開館した。その1階には、甲府空襲の実相や甲府連隊の歴史、戦時下の暮らしなど、戦争と平和に関わる展示、2階には、石橋湛山の生涯と思想が展示されており、全国唯一の石橋湛山資料館として、県内はもちろん、全国各地から見学者が訪れ、この10年間で1万5千人を超えた。

開館前から準備会事務局長として関わってきた私は、現在、開館11周年を迎える山梨平和ミュージアムの理事長として、老骨にむち打ち、楽しみながら運営にあたっている。甲府一高にゆかりの当記念館を、まだ訪れていない諸君、足非、遊びがてら、見学においで下さい(火・水以外の週5日間・午後開館)。

思い出のクラスノート

3年10組担任　保坂すみ子

すっかり黄ばんでよれよれになってしまった数冊の大学ノート。30余年も前にあなた達と私との間を行き交ったノートである。

クラス担任としてあなた達と出会った私は30代も終わりかけた頃である。古くは甲府中学と呼ばれた男子校、多くの卒業生は県内外で活躍している山梨の伝統校である。そこで教壇に立つということは教員になってからの遠い憧れではあったが、いざ現実となってみれば、ここでやっていけるだろうかという不安のほうが大きかったのである。女性教員の数も前任校と比較すればずっと少なく、職員会議なるものもなんとなく威厳に満ちていて、新参者には意見などいえる空気は微塵も流れていなかったのである。が、ジョクラ（女子クラス）なるものの存在に少しはほっとしたものであった。

窮屈な思いを感じながらも、日が経つにつれ、懐の深いとも呼んだらよいような大様さ、包容力、そんなものに私自身が包まれているような心地よさを感じていた。人一倍束縛されることの嫌いな私は自分の信念に従って（今、思い返すと全く赤面の至りであるが）担任としてこんなクラスにしたいとか、教科としての英語ではこんなふうに授業をしたいとか（10数年の経験の中から実践してきたものを）考えていたことを恐る恐るだしていった。

先輩の先生方に何か言われるかもしれないとヒヤヒヤしてもいたが・・・。嘴の黄色い私は怖いもの知らずだったのである。

このすっかり変色しところどころ破れかけたノートには、あなた達と私のあの時の生身の姿、生身の思いが詰まっている。初めのおどおどしたたどたどしいやり取りは、初々しいラブレターのようでもある。私ももちろん緊張している。このノートに一体何が書かれてくるのだろうか。そして私は何と返えしたらよいのだろうか。何日経ってもそのノートが届けられてこない時はそれはそれで心配の種でもあった。あなた達にとっては一方的に押し付けられたようなもので本当にいやなものであったかもしれないが、なんとかあなた達と私の間をノートがブーメランのように飛び交っているうちに、私自身はだんだん楽しくなっていった。今度は誰がどんなことを書いてくるのか。クラブ活動のこと、趣味のこと、友達のこと、将来のこと・・・。そしてだんだんあなた達自身もこのノートを通して互いの知らなかった一面を知るようになり、ノートを待ち遠しく思い、ノートを読むのを楽しみにしているのが手に取るようにわかった。自分の思いを文字にすることにより、自分自身をもより知ることになるし、また他人の思いをも読み取ることになり、さらに人と人とのつながりの大切さを知ることになる。今思えば、このノートは生徒の為というより、教員という仕事についた私にとってより大きな収穫を与えてくれたと思える。

甲府一高で教壇に立てたということはかけがえのない多くの諸先輩の先生方に出会えたということはもとより、多くの素晴らしい生徒達と共に過ごせたという意味において私自身の大切な宝物である。

広告目次

あ

ａｒｋ……111
㈱アール・アイ・ピイ……88
㈲アイシーエス山梨……102
㈱アイ・テック……78
㈲相原商事……94
㈲アウテリアあかざわ……59
アウトブラン……33
医療法人甲療会 赤坂台病院……80
㈱秋山……89
秋山酒類販売㈱……106
㈱秋山電気……96
医療法人 秋山脳外科……77
秋吉 甲府店……88
ＡＣＴＩＶＥ ＣＡＲ，Ｓ……100
浅川熱処理㈱……66
浅沼行政書士事務所……86
㈲アサヒ工業……108
麻美……48
芦沢整形外科医院……91
㈱アシストエンジニアリング……31
アスフィール㈱……104
㈱アドヴォネクスト……56
アトム不動産㈱……110
㈱アトム薬局……100
アニキの学習塾……65
㈲アベエージェンシー……90
アベ・ホーム㈱……105
アポロ印刷……92
天野工業㈱……34
㈱網倉本店……102

雨宮工業㈱……49
雨宮電気㈱……75
㈲アメミヤ塗装店……101
アルガ化粧品店……100
アルプス事務機㈲……78
㈲アンリミット・ジャパン……56

い

飯田鉄工㈱……10
㈲イシイ石油……88
石川法律事務所……111
㈱石黒工務店……42
㈱石友……17
石山耳鼻咽喉科クリニック……108
㈲磯野建設……47
磯部公認会計士税理士事務所……72
イタリアンレストラン＆バー るびい……101
㈲いち田……107
㈱一水工業……104
井筒屋醤油㈱……109
学校法人 伊藤学園……77
稲積神社……94
いなり寿司 清水家……89
井上鋼材㈱……92
今村歯科医院……101
今村耳鼻咽喉科めまい・難聴クリニック……54
㈱イリックス……103
和Ｂａｒいろどり……106
イングリッシュプラス㈱……93
㈱インテリアワコー……96
㈱印伝屋 上原勇七……65
インフォメーション……105

う

魚そう本店……90
うさぎや製菓……108
碓井自動車㈱……100
内田皮ふ科……71

え

㈱ＡＯＢ慧央グループ女神の森セントラルガーデン……84
エコア㈱……40
㈱エコ電サービス……97
㈱エコ・フカサワ……25
㈱エコプラン……106
ＳＭＢＣ日興証券㈱……50
酒彩 縁屋……91
㈱エヌディエス……111
ＮＰＬＡＮ……83
㈱海老名商店……106
江間歯科医院……94
エル・コンドル・パッソ……98
エンゼル動物病院……41
厄除地蔵尊 塩澤寺……91
遠藤学習所……109
遠藤珠算研究会……85
㈲遠藤断熱……86
遠藤塗装店……94

お

ＡＵＢＥ……106
㈱オー・エム・シー……30
㈱オオキ……76
大久保鉄工㈱……93
大久保内科呼吸器科クリニック……70
大関食品㈲……99
太田工業㈱……90
㈱太田屋……94
大原学園 甲府校……104
大森歯科医院……93
アメリカンダイナー オールドハンガー……109
㈱小笠原商会……101
㈱岡島……28
岡田隆（弁護士）……63
㈱岡電気設備……68
小川歯科医院……99
㈱オギノ……7
㈲小口熱研 甲府営業所……97
小口マタイ㈱……83
奥山製パン店……87
㈲奥義……99
小倉税務会計事務所……97
㈱オサダ……47
長田組土木㈱……31
長田産婦人科クリニック……69
㈱尾澤工業……61
小沢歯科医院……104
小沢耳鼻咽喉科アレルギー科クリニック……98
㈱オズ プリンティング……79
小田切塗装㈱……74
おちあい歯科医院……84
㈱乙黒……105
小野大正園……98

か

カーテンじゅうたん王国……70
㈲甲斐地所……87
甲斐ゼミナール……47
甲斐日産自動車㈱……82
海沼商事㈱……86
甲斐國一宮浅間神社……96
㈱甲斐ベスト……32
㈱かいや……103
かえで総合保険㈱……105
㈲加々美組……105
オフィスかがみもち……95
梶山クリニック……69
割烹くしだ……89
㈱加藤商会……98
㈱加藤商店……109
社会医療法人 加納岩……52
神谷映像事務所……96
㈱カラーボックス……59

カワサキ㈱……71
河住歯科診療所……88
㈱カワチヤ装飾……90
川手一郎法律事務所……95
カワニシ建築設計事務所……68
寛酔……111
関東自動車共済協同組合 山梨県支部……102

き

公益財団法人 キープ協会……27
菊地原歯科医院……107
季節料理 旬……107
北野医院……48
㈲キタムラ……101
㈱吉宇屋穀店……107
吉川外科・整形外科医院……80
喫茶マリーエ……92
橘田耳鼻咽喉科医院……89
㈱キデン運輸……85
㈱きぬや商店……98
木の国サイト……103
ギフトランドSATO……97
キュイエット……91
共生会NAC湯村……66
協同電気㈱……87
共同電設㈱……104
共同プリント社……97
協和産業㈱……51
きよ春……69
KIRAKU……100
㈱ギリオン……97
近畿日本ツーリスト 甲府支店……104
㈲キング珈琲……94

く

㈲空調システム工業……86
貢川進徳幼稚園……108
串揚げ 深澤亭……105
くつろぎの邸 くにたち……102
㈱熊谷組……63
公文教育研究会 甲府事務局……表3
公文式竜王東教室……110
㈲クリーンアシスト……97
クリニックサロン ウイット……91
カフェ&パスタ KURU……99
㈱栗原鉄筋工業……166
群芳園……83

け

医療法人 恵信会……38
慶明学園 慶明幼稚園……108
㈱ケージー工業……107
健志堂整骨鍼灸院……81
健友堂クリニック……94

こ

小泉教室……106
㈱小泉中部……59
㈲工藝舎……74
㈲光研測量……100
㈲甲州工業……109
甲州地どり生産組合……106
医療法人銀門会 甲州リハビリテーション病院……75
甲信鋼業㈱……95
㈲神津薬局……100
河野スポーツ㈱……90
河野造園土木㈱……103
河野研工業㈱……110
甲府一高昭和60年卒業生一同……19
甲府一高201ゴルフ会……65
甲府一高昭和42年卒業生一同……104
甲府一高昭和55年卒同窓会「五五会」……35
甲府一高昭和56年卒同窓会「百新会」……29
甲府一高昭和58年卒同窓会……12
甲府一高昭和59年卒同窓会……18
甲府紙器㈱……75
甲府信用金庫……24
㈲甲府スポーツ……92
甲府倉庫㈱……53
甲府宝郵便局……108
㈲甲府中央……87
甲府通運㈱……58
甲府西幼稚園……110
甲府富士屋ホテル……9
甲府丸の内郵便局……75
医療法人立星会 甲府南ライフケアセンター……4
㈱興龍社……75
宏和建設㈱……94
㈱ゴープラス……71
国際建設㈱……27
五光電工㈱……22
輿水順彦……99
小嶋貴金属……67
㈲小島精肉店……99
㈱コスモエナジー……79
コットンクラブ……111
後藤染工㈱……68
古名屋ホテル……61
小林会計事務所……87
㈲小林建鉄……98
小林歯科医院……106
㈲小林燃料店……82
㈲コバヤシビデオ……29
五味設備……109
小宮山外科医院……88
近藤医院……98

さ

㈱齊木煙火本店……101
三枝酒店……86
さいとうクリニック……105
斉藤内科循環器科医院……69
㈱境川カントリー倶楽部……表4
境川診療所……94
㈱坂本建運……73
桜こどもクリニック……90
櫻林腎・内科クリニック……77
酒のディアーズ……93
㈲ささごん……98
㈲ササモトスタジオ……93
慧……91
佐藤建材金物㈱……53
佐渡屋……102
佐野工建㈱……101
茶房どんぐり……96
美容室サリュー……89
㈱澤田屋本店……85
さわ淵……74
㈱三愛印刷……93
サンコー電化……87
㈱サンテック……43
山日YBSグループ……表2
三友自動車工業㈲……96
㈱三和リース……63

し

㈱ジーベック……33
㈱JMK MARUFUKU……107
㈱シオザワ……90
シオジマ歯科医院……87
歯科若尾……93
敷島醸造㈱……91
治作鮨……84
㈱システムインナカゴミ……94
曹洞宗天真山 自性院……168
ジット㈱……80
㈲篠原電研……81
篠原貿易㈱……105
嶋崎耳鼻咽喉科医院……78

(株)島田貴金属店……36
清水クリニック……83
清水工機(株)……86
(有)シミズ酒販……77
シミックホールディングス(株)……53
下石田食堂……84
医療法人財団交道会 しもべ病院……72
シモン……64
(株)シャトレーゼ……82
(有)ジャパンアートメモリー……96
(株)ジャパンメディカル……95
シャルム……103
(株)十一屋……111
(有)住宅創造……81
順聖クリニック……74
(株)SHOEI……89
(株)昭栄精機……52
(株)商工組合中央金庫……66
(株)少國民社……38
(株)正直堂……99
(株)浄土の里……70
昭和総合警備保障(株)……26
昭和田中歯科医院……107
(株)昭和鉄工……36
(株)白根ベニヤ……103
(株)シルキーワークス……43
(株)仁 -JIN-……108
(株)寝具の望月……92
(株)シンゲン……103
新星電機(株)……78
(株)伸電工業……88
新藤歯科医院……91
心理臨床オフィス・ルーエ……109
(株)新和運輸……95

す

(有)水質メンテナンス アクア……14
(有)スーパー太陽……105
スカイシューティング……109
医療法人幸仁会 須貝整形外科医院……87
すが建設……92
杉田小児科医院……68
鈴木歯科医院……88
鈴木製菓(株)……23
鈴健興業(株)……95
須田自動車工場……103
砂田会計事務所……86
炭火焼肉 野・野……106
スリーエスオート……93

せ

セイ動物病院……70
(株)清流舎……97
(株)誠和……90
積水ハウス(株) 山梨支部……39
セコム山梨(株)……97
セブンイレブン甲府伊勢1丁目店……58
(有)千秋舎 セキテイ調剤薬局グループ……94
(株)センティス21……96
千成寿司……105
臨済宗妙心寺派 善應寺……57

そ

創甲斐建築設計社……110
創建アシスト……81
創夢(株)……61
(株)ソートマン山梨……102
(有)曽根理美容室……76

た

第一観光(株)……104
大栄土木建設(株)……106
太冠酒造(株)……96
(株)大成電気……101
(株)ダイタ……60
(株)大統……62
(有)ダイナ……111
(株)大日ママクリーン……47
大丸商事(株)……13
Time Gang……58
(株)ダイヤ商事……53
(株)太陽社……97
(株)太陽設計……102
(有)太陽設備システム……42
大和証券(株) 甲府支社……72
泰和電気工業(株)……85
(有)高野牛肉店……111
(株)高野塗装店……103
高橋音楽教室……108
(株)滝沢電気……110
滝田建材(株)……88
(株)田口工務店……79
医療法人悠紀会 武井医院……76
(株)武田広告社……167
竹野総合事務所……87
(株)たけまる……95
(有)立建……107
(株)タチバナメディカルサービス……5
田中会計事務所……54
(株)田中重建……74
たま動物病院……103
玉諸歯科……87
(株)タンザワ……52
談露館……110

ち

TEAM57……25
(有)竹林堂……102
ChaiChai……110
(株)中央車輌販売……102
中央ベニヤ(株)……86
(株)中部……34
ごはんBAR ちろりん村……108
塚田忠久税理士事務所……100
(有)辻建材……96
(株)土屋工業……73
TSUBO……110
つゆきこどもクリニック……79
露木耳鼻咽喉科医院……95
鶴田電気(株)……104
(有)鶴田塗装工業所……92
ツルヤ化成工業(株)……46

て

ディアハート……90
(株)TH測量……88
TMY……109
(有)ディレクターズ東京……82
鉄建工業(株)……98
てっぱん 秀……105
居酒屋 手拍子……108
(株)テレビ山梨……97
10AVERAGE……94
(株)テンヨ武田……83

と

(株)東栄……90
東京三五会……63
東京鮨……107
東京セキスイハイム(株)……90
東京地方税理士会 甲府支部 日新会……2・3
(株)東和……61
常磐ホテル……52
(株)戸栗鉄構電設……98
(有)戸島造園……96
(株)土地ナビゲーション……106
富竹歯科医院……85
(株)トミオカテニス……109
トヨタホーム山梨(株)……54
鳥玄……81

(株)とりしん……92
都立大ペインクリニック……20
(株)鳥林……110
(株)トレジャー……101
とんかつ とん甲……99
とんかつ直治朗……86

な

ナイスデザイントップ……100
内藤家具インテリア工業(株)……83
内藤歯科医院（甲府市）……93
内藤歯科医院（中央市）……110
(株)内藤乳販……103
(株)内藤ハウス……28
(有)中川看板店……111
(株)なかごみ……103
中込建設工業(株)……79
中澤経理事務所……51
(有)中澤工業……62
なかざわ歯科医院……91
中沢歯科医院……92
(有)中沢実業……85
なかざわ耳鼻咽喉科クリニック……72
(株)中沢薬局……68
(株)中嶋文夫＋DA設計事務所……80
(株)ナカダ……62
中楯スポーツ振興(株)……102
中楯電気(株)……73
(有)中日本測量……107
(株)中村……103
(株)中村建設……101
なかむら内科クリニック……95
(株)中家製作所……55
七沢歯科医院……99
(有)成田自動車工業……102
南信工営(株)……50

に

肉ビストロ KAGURA……111
NIKUYAKI吟興……94
(株)ニシノ建設管理……90
西東京観光バス(株)……79
(株)日医工山梨……57
(有)日眼甲府薬局……84
(株)日設工業……69
社会福祉法人 日新会……88
日新トラベルサービス(株)……85
日星(株)……78
新田石材店……100
二宮眼科医院……86
二宮公俊……8
(株)日本旅行 甲府支店……67
ニューツリー……93
(株)ニュー平和……86
(株)ニラボウ……108

ぬ

(株)沼田鉄筋……110

ね

ネッツトヨタ甲斐(株)……11

の

のざわ耳鼻咽喉科クリニック……81
(有)野中製材所……83
野村證券(株) 甲府支店……95

は

ハーレーダビッドソン山梨……89
(株)ハウジングIN……87
萩原建築……87
(株)萩原ボーリング……57
萩原勝公認会計士・税理士事務所……94
(株)はくばく……15
(株)橋本鉄工……98
(株)長谷川製作所……59
畑歯科医院……98
羽中田歯科医院……89
(株)羽中田自動車工業……60
花形歯科医院……99
話し方教室 スピーチ・スピーチ……110
HANA英BUSA……109
ばば歯科医院……79
(株)馬場設計……88
隼人ジム……97
(株)早野組……6

ひ

(有)ピアジュエリー……166
(株)ビーイングコーポレーション……55
樋泉智男……104
bright……71
医療法人小宮山会 ひかり眼科医院……93
(株)樋川建設……72
(株)樋口……76
樋口歯科医院……99
(株)日向精工……85
ひはらクリニック……73
(株)ひまわりサポート……24
ヒューコムエンジニアリング(株)……165
(株)平岩工務店……89
廣瀬醫院……56
(有)ヒロ野草研究所……96

ふ

(株)ファースト……104
ファミリーマート（ケイカンパニー）……89
(有)ファンテック……46
(有)フィッシュランド イシハラ……95
cafe&goods foo……82
スナック Fool's……111
フォトスタジオ キャンパス……85
(株)フォネット……39
(株)深沢ステンレス工業……90
富国生命保険相互会社……32
(株)富士環境……50
(株)富士工業……65
(株)藤沢鉄工(株)……98
富士島建設(株)……49
藤原整形外科……87
富士見歯科医院……109
京呉服 ふじや……78
ふじやま温泉（富士急行(株)）……54
富士冷暖(株)……45
藤原会計事務所……101
豊前医化(株)……48
フラワーマーケット……95
Blue Café……107
Blue Moon……111
(有)古屋商店……108

へ

ヘアーサロン にちょうめ末木……107
HAIRS JAM……37
ベルクラッシック甲府……110
(株)Vent計画設計室……102

ほ

法事の窓口 (株)メモリアルハート……30
(有)北条油店……101
蓬莱軒……86
(有)豊和興業……86
(株)保険ドリーム……82
保阪歯科医院……92
保坂歯科医院……104
細田眼科医院……80
ホソダ不動産(株)……95
(株)堀田宝飾……106
ホテル平安……64
堀内整形外科医院……88
堀内平嶋法律事務所……51

ま

マイウェイジム……97

前沢自動車工業……89
マコト医科精機㈱……16
マスヤマ板金工業……102
MAHARANI……89
㈲丸一高村本店……109
丸十山梨製パン㈱……108
㈱マルハン……51
㈱マルモ……58
㈲マルワ企画……101

み

㈱三宅建築設計事務所……86
㈲美郷……111
御崎神社……93
三谷商事㈱ 中部支社 山梨支店……96
医療法人静正会 三井クリニック……69
三井歯科医院……88
三井住友海上火災保険㈱……73
㈱三井住友銀行……49
三井生命保険㈱……82
三塚歯科医院……92
三菱UFJモルガン・スタンレー証券㈱……73
㈱緑が丘設備……111
みどりクラブ……89
医療法人社団 薬袋レディースクリニック……69
㈱湊與……78
宮川米肥店……92
㈱ミヤビ総設……106
延福山 妙泉寺……21
㈲未来空調……97

む

医療法人 向山クリニック……80
向山塗料㈱……76
村松歯科医院……92

め

㈱メイキョー……60
明友建設㈱……105

も

㈱望月組土木……99
望月耳鼻咽喉科……96
望月板金塗装車体整備工場……89
モテギ㈱……44

や

やきとり 千成……104
焼肉 ひろや……106
八雲製菓㈱……48
厄除地蔵尊大祭奉賛会……75
矢崎耳鼻咽喉科医院……91
㈱やさしい手 甲府……26
㈱山市成工……75
山一窯業㈱……103
㈲山縣塗装店……101
八巻労務経営事務所……60
山交タウンコーチ㈱……64
㈲ヤマシタ……44
山梨アサノコンクリート㈱……71
山梨OA機器販売㈱……99
社会福祉法人 山梨樫の会……46
山梨貨物自動車㈱……76
山梨管財㈱……104
山梨クラリオン㈱……102
山梨県営繕事業協同組合……100
山梨県国民年金基金……107
山梨縣護国神社……100
山梨県信用農業協同組合連合会……70
ヤマナシケンソー㈱……81
山梨建鉄㈱……72
山梨県弁護士会……1
山梨交通㈱……64
山梨品川燃料㈱……98
㈱山梨自販……85
㈱山梨新報社……84
山梨信用金庫……37
山梨スズキ販売㈱……55
㈱山梨中央銀行……50
山梨中央青果㈱……71
山梨通運㈱……87
山梨トヨタ自動車㈱……77
山梨トヨペット㈱……77
山梨ユニフォーム㈱……73
㈲山梨ライフサポート……100
公益社団法人 山梨YMCA……95
㈱山根園……91
山本基礎工業㈱……45
㈲山梨検査センター……57
箭本外科整形外科医院……93

ゆ

雄一級建築設計事務所……108
㈱UG都市建築……62
㈱ユーティーワイ企画……84
雄飛会（昭和37年卒）……35
ユタカ電機㈱……74
㈲ユタカ商事……91
湯殿館……56
㈱ユニセン……67
医療法人八香会 湯村温泉病院……105
㈱湯村自動車学校……70
湯めみの丘……72

よ

医療法人和州会 吉田医院……80
依田歯科医院……109
代々木ゼミナール……77

ら

ラーメンれんげ……76
㈱ラッキー商会……41

り

龍王産業㈱……68
竜王レディースクリニック……68

れ

㈱レイコー……46
レストランバー SAIKI……100
連合山梨……107
㈱れんじゃく……93

ろ

㈱ロード……74
ローファム山梨……70
Lohas Hair Smile……105

わ

㈱ワイ・イー・エス……91
㈱YSKe・com……66
若尾歯科医院……88
㈲若月建設……91
めし処 和貴……99
早稲田育英ゼミナール 竜王教室……55
NPO法人 わたげの会……40
渡辺建設興業㈱……49
㈱渡辺工業所……71
渡辺整骨院……92

【9組】
石川　充
金井芳朗
河村由里
酒井雅子
清水智恵子
反田友美
武井　守
日向浩二
古屋雅仁
古屋裕文
【10組】
柳澤章司
石井文子
石原理恵
井出真美
杉浦リエ
田中有里
田村友見子
名取小百合
深澤美佐
深沢陽子
藤吉正美
古河好美
丸山ひとみ
宮沢幸子
望月浩美
矢崎裕子
山田奈津子
横内真弓
吉田麻里

（平成30年5月7日現在）

第138周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会組織

■実行委員長…
3組　鈴木浩文

■実行副委員長…
7組　饗場紀仁
2組　皆川千香子
5組　小林玲夫
5組　野澤俊英
5組　小澤　拓

■事務局長…
5組　小林玲夫

■事務局次長…
5組　野澤俊英

■会計監査…
5組　小澤　拓

■総務部会…
部会長　5組　小林玲夫
副部会長　5組　野澤俊英

■広報ＩＴ部会…
部会長　1組　武部慎吾
副部会長　8組　今福　徹

■会計部会…
部会長　5組　山田光一
副部会長　6組　長田三千穂

■会員券部会…
部会長　1組　小嶋　昇
副部会長　1組　飯田康雄

■広告部会…
部会長　7組　平岩　謙
副部会長　7組　饗場紀仁

■会場部会…
部会長　1組　板橋明好
副部会長　6組　小林信雄

■記念誌部会…
部会長　1組　小田切太郎
副部会長　3組　樋口正俊

■強行遠足部会…
部会長　1組　雨宮君雄
副部会長　2組　佐藤克俊

■東京部会…
幹事長　3組　中村　哲也
事務局長　1組　望月　勝
幹事　3組　新井由紀子
幹事　4組　佐々木さき子
幹事　4組　簗田知子
幹事　5組　松野哲郎

■クラス幹事…
代表幹事長　2組　三澤修一
副代表幹事長　7組　樋川　広
1組　（正）飯田康雄
（副）雨宮君雄
板橋明好
小嶋　昇
2組　（正）佐藤克俊
（副）井上進治
末木清孝
3組　（正）菊島正樹
（副）入蔵一憲
4組　（正）飯塚五月
（副）志村理英子
5組　（正）保坂律夫
（副）駒井久美子
山田光一
6組　（正）小林信雄
（副）長田三千穂
7組　（正）樋川　広
（副）國友純司
小宮山恭子
8組　（正）今福　徹
9組　（正）石川　充
10組　（正）杉浦リエ
（副）反田友美
深澤美佐

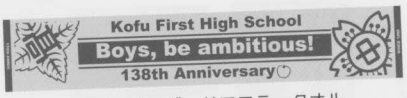
■平成15年卒（サブ幹事）…
幹事長　赤木顕俊
事務局長　岩間冬美
幹事　村松裕美

138周年 同窓会グッズ

タオルは、日常の暮らしの中で使用してもらい、ふとした瞬間に一高で過ごした日々を思い出すきっかけとなってほしいという思いから制作しました。

マフラータオル

- 甲府中学と甲府一高の校章と創立年を入れ、学校の歴史、伝統を表現しました。
- 『Boys, be ambitious ！』
  年齢を重ねても、夢や目標を持ち、一歩ずつ前進できるような励ましの校是。
- 緑色（タオルの地の色）
  昭和61年卒業生の学年色（体育着）に合わせ、夜間でも目に立つような明るい「ライトグリーン」に。
  同窓生から現役生まで、強行遠足、試合観戦、スポーツ、ウォーキングなど、様々な場面で使ってもらいたいと思います。



商品名：ジャガードマフラータオル
（本体：ライトグリーン／文字：ネイビー）
サイズ：横110cm×縦20cm

ミニタオル

- リンゴのモチーフ
  卒業生が共有する強行遠足の思い出、青春の思い出です。
- Reunion （同窓会）
  この言葉には、Re（再び）union（結合）の意味もあり、同窓会の活動を通じて卒業生が縦、横に再び結ばれたこともイメージできる響きを持ちます。

商品名：ジャガードミニタオル
（本体：ネイビー／文字：レッド）
サイズ：20cm×20cm

どら焼き

138周年同窓会の鈴木浩文実行委員長が社長を務める鈴木製菓で作った記念のどら焼きです。
鈴木実行委員長が焼印を特注して、一つひとつ手作業で製造。昨年の同窓会で販売し、ゴルフ大会などでも配布しました。

編集後記

“記念誌を作るのは最初で最後”この言葉と共に私は記念誌部会を引き受けた。楽しそうだ、やり甲斐がある、という想い以上に、失敗できない、人に迷惑かけられない、形になるのだろうか、という不安の方が上回っていた。

記念誌部会がキックオフされた当時は、米倉涼子さん主演のドクターXというドラマが放映されていて「私、失敗しないので。」というフレーズが毎週私の頭にガツンと響いていた事を思い出す。仕事もあれば家庭もある。そんな中での大役はハッタリでも“失敗しないので”とは言えなかった。

しかしながら、その不安も徐々に解消されていく。心強い部会のメンバーに恵まれたからだ。数十年ぶりに再会した旧友は、私の想像以上に頼もしかった。私は心許ない部会長ではあったが、きちんと同じ目標に向かって共に歩んでくれた。その成果がこの記念誌である。「いい記念誌にしようね。」「がんばろうね。」記念誌部会開催の度にお互いを称え、時に固い握手を交わすなど、苦しい状況にありながらも結果的にはみんな最初で最後の“非日常”を楽しめたと思う。いつの間にか「記念誌を“作る”」から「記念誌を“創る”」に変わっていた。単なる作業ではなく、想いを込めて創造する部会に関わる事ができた事。本当に嬉しかったし誇りに思う。

同窓会総会が終れば、この記念誌も歴代の記念誌の中に混じり、言い方はよろしくないが、長い同窓会の歴史の中に埋もれていく。しかしながら我々61年卒生にとっては生涯特別な一冊であり続ける。この先歳を重ねて、一高を、そしてこの平成30年同窓会総会を思い返すきっかけは我々同級生という“人”と“証（あかし）”。この記念誌や、今回の同窓会総会記念として女性有志が苦労して制作してくれたマフラータオル、鈴木実行委員長の会社のどら焼きなど同窓会グッズは、私達61年卒同窓生が再び一高への思いを馳せる時の特別な“証（あかし）”であることに違いない。

記念誌創りを終えた今でも私は「失敗しないので。」とは言えないが（笑）、

「みんなのおかげで、失敗しなかったよ!!」

この記念誌に関わってくれた全ての皆様に心から感謝申し上げます。

第138周年甲府中学・甲府一高同窓会　記念誌部会長
小田切 太郎

第138周年 甲府中学・甲府一高同窓会

想い、未来に紡ぐ。

～桜の誇り 四つ葉の望み～

発行日：平成30年5月19日
発行：第138周年甲府中学・甲府一高同窓会実行委員会
編集：記念誌部会　制作・印刷：株式会社少國民社

同窓諸氏にとって
節目の年、思い出の一日、
記念の一枚をこのページに――。

境川カントリー倶楽部

〒406-0851 山梨県笛吹市境川町小黒坂2266
TEL 055-266-5012　FAX 055-266-4689
URL http://www.sakaigawacc.com